科目名:学修総まとめ	担当者:近藤 茂之・高田 吉朗・高須 裕美・平野 朋枝・吉見 昌弘・小川 絢子・山下 直樹・太田 昌孝・小柳 雅子・上原 隆司・新沼 英明・吉田 真弓・杉山 実加・橋村 晴美・青山 裕美・小島 千恵子・八幡 美保	開講学科等	専攻科保育専攻
		授業形態	演習

免許･資格:	開講時期	通年
	配当学年	2
受講者制限:	単位数	4
	必須.選択	必須

授業概要と方法
　本授業は、国際的・地域的な問題解決能力を有する保育の専門家を目指し、４年間の学修を総括するための学修総まとめ科目です。これまでの授業等で学んだ成果はもとより、自らの経験や実習、調査した学修全体の省察をします。具体的には、指導教員の指導のもと、自ら取り組むテーマに基づき学修・探求を行い論文を作成します。その過程において、中間発表会を実施し、論文作成のための「履修計画書」を作成した上で、論文を完成させ、ポスター発表形式の口頭試問を実施し、「成果の要旨」としてまとめていきます。なお、本授業では直接指導に加えて適宜、音声、動画を加えた多様なメディアを高度に利用し、授業の課題や資料はmoodleなどのeラーニングも活用し、論文の成果をもって授業に相当する場合もあるものとします。

授業の到達目標
以下の項目について学ぶことで、将来、保育者として身につける資質を育成することを目標とします。
１　学修の総まとめとして論文を計画、立案、作成することで保育・教育を研究する技能と能力を理解できる
２　学士課程教育に相当する４年間の学修成果を総括することで思い描く保育者像を描くことができる

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
準備学修として、授業前に指導教員から与えられた課題をまとめ、報告できるように準備をすること（授業毎に２時間）。事後学修としては、指導を受けた後、指導の内容を論文に反映できるよう、自分なりに研究し、考察する過程を繰り返すこと（授業毎に２時間）。

評価方法
論文35%、中間発表会15%、口頭試問（ポスター発表形式）20%、授業参加点30%として総合的に評価する。

教科書 授業時に指示します	参考図書 授業時に指示します

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
この授業は、短期大学等の２年間と専攻科における２年間で学んだすべての学修成果を論文にまとめることを目指します。担当教員の指導を受けながらさまざまな科目と関連づけて学修を進め、質問等はオフィスアワー（授業のある日のお昼休み）の時に来訪して下さい。連絡先は授業時に開示します。

01	年間の授業の流れの説明（オリエンテーション）
02	論文のテーマと構成の再確認（１）はじめに等
03	論文のテーマと構成の再確認（２）章立て等
04	論文のテーマと構成の再確認（３）文献等
05	論文の中間発表会の準備（１）論文添削
06	論文の中間発表会の準備（２）論文修整
07	論文の中間発表会の準備（３）論文下書き
08	論文の中間発表会と質疑応答
09	論文の中間発表会の反省と修正（１）点検
10	論文の中間発表会の反省と修正（２）修整
11	論文の中間発表会の反省と修正（３）加筆
12	論文の「履修計画書」の立案
13	論文の「履修計画書」の作成
14	論文の「履修計画書」の完成
15	前期のまとめ
16	文献・先行研究のまとめ（１）前半
17	文献・先行研究のまとめ（２）後半
18	保育（教育）実習のまとめ（１）前半
19	保育（教育）実習のまとめ（２）後半
20	保育（教育）実習のまとめ（３）全体
21	論文全体の構築とまとめの作成
22	論文全体の構築とまとめの完成
23	学修総まとめの論文の確認
24	学修総まとめの論文の完成
25	口頭試問の準備・質疑応答の対策
26	ポスター発表形式の口頭試問の実施
27	口頭試問の反省
28	学修総まとめの「成果の要旨」作成

29	学修総まとめの「成果の要旨」完成
30	総括
31	なし

2021年度シラバス

科目名:女性とジェンダー	担当者:中村 奈津子	開講学科等	専攻科保育専攻
		授業形態	講義
免許・資格:		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
この授業では、ジェンダー（社会的・文化的につくられた性差、性別）を切り口に、自己理解と他者理解、さらには現代社会の抱えるさまざまな問題への理解を深めます。資料を用いた講義を中心に、映像資料も使いながら考察を深めます。また、グループワークなど参加型の授業も取り入れますので、積極的な参加を歓迎します。

授業の到達目標
①ジェンダー（社会的・文化的につくられた性差、性別）について理解し、ジェンダーの視点をもって人と社会を見ることができるようになります。
②ジェンダー・アイデンティティやセクシュアリティについて学び、自己理解・他者理解を深めます。
③現代社会の抱えるさまざまな問題（家族、労働、ケア、暴力、格差など）に対して、ジェンダーの視点をもって考える力を身につけます。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
毎回の授業で指示をします。ジェンダー課題は、日ごろ「当たり前」と思っている常識や慣習の中に深く入りこんでいるので、自分の問題として気づき、考えることが大切です。性別や性について、身の回りで「当たり前」と思ってきたこと、思われていることに注目し、つねに「どうして？」と考える姿勢を大切にしてください。

評価方法
レポート6割、授業ごとに提出するコメントシートの内容（4割）で評価します。
いずれも授業内容の理解度と、当事者性をもった考察を重視します。

教科書	参考図書
指定なし。講義内容に応じて配布する資料がテキストとなります。	ひとりひとりの「性」を大切にする社会へ（遠藤まめた　新日本出版社）

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
連絡手段は授業時に知らせます。

01	オリエンテーション
02	ジェンダーとは何か：社会のなかで、ジェンダーはどのように形成されているか
03	ジェンダー平等をめぐる歴史（１）：フェミニズム運動と女性学
04	ジェンダー平等をめぐる歴史（２）：ジェンダー平等男女共同参画社会をめざす、国内の動き
05	多様な性：ジェンダー・アイデンティティとセクシュアリティ
06	家族とジェンダー（１）：変わりゆくパートナーシップ・結婚・家族
07	家族とジェンダー（２）：家事・育児・介護などのアンペイドワークとケア概念
08	暴力とジェンダー：親密な関係において起こりうる暴力（DV、デートDV）
09	労働とジェンダー（１）：雇用における性差別と、労働に関連する法制度
10	労働とジェンダー（２）：女性の活躍、働き方の変革といった、現代社会の労働政策
11	ハラスメント：職場や学校における、ジェンダーに由来するさまざまなハラスメント
12	メディアとジェンダー：メディアにおけるジェンダー問題
13	防災・災害復興とジェンダー：ジェンダーの視点をもった防災・災害復興
14	ジェンダーを表現する
15	ジェンダー平等をめぐる、国際的な動き（CSR／SR、SDGｓ）
16	レポート課題

2021年度シラバス

科目名:English for Children Ⅰ	担当者:Rebecca Jackson	開講学科等	専攻科保育専攻
		授業形態	演習
免許・資格:		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
The aim of this course is to introduce students to various techniques and activities used when teaching English to pre-school children. Class will include explanations and demonstrations of these techniques followed by students practicing them themselves.

授業の到達目標
Upon successful completion of this course, students will be able to use games, flashcards, puppets, books and songs to teach English, recognize what topics and activities are suitable, and plan & deliver classes in a professional manner.

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
The class will be taught in English and students are expected to use English in class. The course uses an active learning approach. Full class participation in class activities is required to demonstrate understanding and ability on a weekly basis. Since this is a two credit course students should do at least 2 hours of homework a week.

評価方法
1.Weekly homework - 10 submissions (40%) 2. Individual Project (20%) 3. Group Project (20%) 4. Review Quizzes - 3 times (20%)

教科書	参考図書
All textbook materials will be provided by the instructor in a booklet on Moodle.	None

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
There are no prerequisites to this course. Missed coursework components may be re-scheduled with the instructor's permission. If students have any questions about the course please contact the teacher.

01	Course overview & explanation
02	Overview of suitable pre-school topics and vocabulary
03	Introduction to teaching aids; Teaching aids part one - flashcards and gestures
04	Teaching aids part two - games and classroom English
05	Review & practice using flashcards and gestures
06	Practice using games and classroom English
07	Teaching aids part three- puppets, songs and books
08	Practice using puppets, songs and books
09	Review
10	Individual micro-teaching preparation
11	Individual micro-teaching
12	Individual micro-teaching
13	Group micro-teaching preparation
14	Group micro-teaching preparation
15	Group micro-teaching & Reflection
16	None

2021年度シラバス

科目名:English for Children Ⅱ	担当者:Rebecca Jackson	開講学科等	専攻科保育専攻
		授業形態	演習
免許・資格:		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
This course introduces students to various techniques, activities and methods used when teaching English to elementary school children. Class will include explanations and demonstrations of these techniques followed by students practicing them themselves.

授業の到達目標
Upon successful completion of this course, students will be able to plan and use activities related to the four language skill areas (listening, speaking, reading and writing), and recognize what topics and activities are suitable for teaching English to elementary school children, and plan & deliver classes in a professional manner.

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
Students are expected to use only English in class. Full class participation in class activities is required to demonstrate understanding and ability. Students will periodically write a class reflection journal. Timely completion of homework is necessary. Since this is a two credit course students should do at least 2 hours of homework a week.

評価方法
1. Weekly homework - 6 submissions (20%) 2. Individual micro-class teaching (50%) 3. Review Quizzes - 2 times (10%) 4. Reflection journals - 5 times (10%) 5. Course reflection report (10%)

教科書	参考図書
All textbook materials will be provided by the instructor in a booklet on Moodle	None

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
There are no prerequisites to this course. This course is related to the Teacher License Course. Missed coursework components may be re-scheduled with the instructor's permission. If students have any questions about the course please contact the teacher.

01	Course overview and explanation
02	Overview of suitable elementary school English topics and child-centered learning
03	Introduction of the four language skills; Introduction to listening activities & techniques
04	Practice listening activities
05	Introduction of speaking activities & techniques
06	Practice speaking activities & techniques
07	Review class & MEXT guidelines for English program
08	Introduction of reading activities & techniques
09	Practice reading activities
10	Introduction of writing activities & techniques
11	Practice writing activities
12	Genki English Video & Individual micro-class preparation
13	Individual micro-class teaching preparation
14	Individual micro-class teaching
15	Individual micro-class teaching; Review; Reflection
16	None

科目名:子育て支援特演	担当者:吉見 昌弘	開講学科等	専攻科保育専攻
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
本授業は、国際的・地域的な問題解決能力を有する者を目指し、これまでに学んだ専門的知識を実践に生かしていきます。そのために地域の子育て支援に関する情報収集やネットでの情報発信、施設への見学、実践への参加を経験しながら子育て支援の実践力を高めていきます。実際の授業の展開においては構内の施設（大学図書館等）や地域の子育て支援施設等と連携しながらアクティブラーニングを用いて学生が主体となって子育て支援の実践を展開します。なお、授業の課題はmoodleを利用したeラーニングを活用します。

授業の到達目標
1　国内及び国際的な視野をもって子育て中の家族を取り巻く社会状況を理解できる
2　少子化の問題やどのような子育て支援が必要であるか説明することができる
3　地域の子て支援活動について、支援する者の資質や具体的な支援方法を考えて実践することができる

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
準備学修として、次回の授業前に課題を出します。その課題を次回授業までに作成して下さい。さらに、実践活動においては、そのための事前準備を主体的に実施して下さい（授業毎に２時間）。事後学修においては、授業で学んだ事を実践に生かす話し合いをグループで実施すること。実践後には、振り返りで反省会等を各グループで実施して下さい（授業毎に２時間）。

評価方法
授業・実践活動への参加態度や提出物を70%、最後のレポート30%を目安として総合的に評価します。なお、なお本授業では、指示しない限りスマホ、携帯電話の使用及び飲食を禁止します。

教科書	参考図書
授業中に指示します	授業中に指示します

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
この授業は学生自身がアクティブに取り組むことが要求されます。教員が指示するよりも、与えられた課題について主体的に取り組んで下さい。必要な課題があればmoodleへ提示します。適宜参照して下さい。なお、質問等は授業の前後やオフィスアワー（授業のある日のお昼休み）とし、連絡先は授業時に開示します。

01	オリエンテーション（授業全体の流れ、授業の進め方やルールの説明）
02	自治体による地域の子育て支援活動　※以下、順番は状況に応じて入れ替わります 自治体による地域の子育て支援活動　※以下、順番は状況に応じて入れ替わります 自治体による地域の子育て支援活動　※以下、順番は状況に応じて入れ替わります自治体による地域の子育て支援活動　※以下、順番は状況に応じて入れ替わります 自治体による地域の子育て支援活動　※以下、順番は状況に応じて入れ替わります 自治体による地域の子育て支援活動　※以下、順番は状況に応じて入れ替わります
03	企業・NPOなどによる地域の子育て支援活動
04	図書館などによる地域の子育て支援活動
05	多様なメディアを用いた子育て情報の提供
06	地域の子育て支援活動の見学
07	地域の子育て支援活動の調査
08	地域の子育て支援の実践（１）テーマの設定　※構内もしくは地域の施設を利用して実践します
09	地域の子育て支援の実践（２）チラシ作成と宣伝
10	地域の子育て支援の実践（３）指導案の作成
11	地域の子育て支援の実践（４）準備・製作活動
12	地域の子育て支援の実践（５）実践の展開グループ１（実践テーマ未定）
13	地域の子育て家庭の実践（６）実践の展開グループ２（実践テーマ未定）
14	地域の子育て家庭の実践（７）実践の展開グループ３（実践テーマ未定）
15	まとめとレポート提出
16	なし

科目名:保育研究法Ⅰ	担当者:吉見 昌弘	開講学科等	専攻科保育専攻
		授業形態	演習
免許・資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
　本授業は、多様なニーズに対応した高い能力をもつ保育と子育ての専門家を目指し、日々の保育の中から課題を見つけて、継続的に研究を重ねることで、保育に対する意識が高まり、専門性が深まることが実感できるように、自分の課題を発表したり、提案したりして、グループあるいは全員で検討する。よりよい保育を作り上げていくことができるように話し合いを重ね、保育をより科学的、理論的に追求していけるようにする。なお、本授業では直接指導に加えて適宜、音声、動画を加えた多様なメディアを高度に利用し、授業の課題や資料はmoodleなどのeラーニングも積極的に活用していく。

授業の到達目標
１学修総まとめ科目の基礎に関連する様々な研究方法や文献の読み方について理解できる
２過去の保育研究や保育実践について検討したり、保育特別実習での振り返りなどから、研究のあり方について検討することができる
３保育の実践記録を読み解くなどして、保育の研究のあり方を探求することができる

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
保育研究をするという視点をもって、文献研究や質問紙調査を授業外の学修として探求する。さらに、保育実習に臨んでは、科学的に保育を考えるために、実践の記録を多く残し、実習を終えるごとに、論文作成の有効な資料にできるように自主学習で努力すること。なお、実習の記録は、自分の研究テーマを中心に記載し、保育を深く見つめることができるような記録にしましょう。

評価方法
授業における積極的な取り組みの様子を20%、moodleを使ったeラーニングによる課題の提出を60%、その他のレポートの提出を20%として総合的に評価する。

教科書	参考図書
特になし	授業中に指定する

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
この授業はmoodleを積極的に活用しながら指導していきます。授業に対する質問や連絡はmoodleの本授業のコースのフィーラムもしくは連絡用メールアドレスで相談して下さい。

01	オリエンテーション、年間の授業の流れの説明
02	研究テーマの設定の仕方
03	研究方法の種類と用い方（１）
04	研究方法の種類と用い方（２）
05	資料収集の方法（１）
06	資料収集の方法（２）
07	資料分析の方法（１）
08	資料分析の方法（２）
09	アンケート調査の方法
10	アンケート調査の統計処理
11	グラフ・表の書き方
12	論文全体の構成の作り方
13	論文全体の構成案の作成
14	実践記録の事例収集
15	実践記録の読み方とまとめ
16	なし

2021年度シラバス

科目名:保育研究法Ⅰ	担当者:小栁 雅子	開講学科等	専攻科保育専攻
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
本授業では、多様なニーズに対応した高い能力をもつ保育と子育ての専門家を目指し、保育をより科学的、理論的に追求していけるようになるために学習します。日々の保育の中から課題を見つけて、継続的に研究を重ねるための能力を培うことが目標です。
そのために、受講生自身の研究課題を発表・提案し、受講生による相互講評や討議を実施します。なお、本授業では直接指導に加えて適宜、音声、動画を加えた多様なメディアを高度に利用し、授業の課題や資料はmoodleなどのeラーニングも積極的に活用していくこととします。

授業の到達目標
①学修総まとめ科目の基礎に関連する様々な研究方法や文献の読み方について理解できる
②過去の保育研究や実践記録を読み解き、保育研究の在り方を探究することができる。
③保育特別実習での振り返りなどを基に、自らの研究のあり方について検討することができる。
以上３点を、本授業の到達目標とします。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
保育研究をするという視点をもって、積極的に文献を収集し、読み解くこと。また質問紙調査をはじめとする調査方法を探求する。また、科学的・理論的に保育を追求するために、保育実習において実践の記録をしっかりと残しましょう。実習を終えるごとに、論文作成の有効な資料にできるように自主学習で努力してください。なお、実習の記録は、自分の研究テーマを中心に記載し、保育を深く見つめることができるような記録にしましょう。

評価方法
①第１回～14回の授業で実施する授業内課題（10点×14回＝140点）と②第15回に提出してもらうここまでの研究内容（60点）の合計点（200点）を総合評価します。単位の修得基準は60％（120点）以上です。

教科書	参考図書
特にありません。毎回、レジュメを配布する予定です。	幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育・保育要領等

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
この授業はmoodleを積極的に活用しながら指導していきます。授業に対する質問や連絡はmoodleの本授業のコースのフィーラムもしくは連絡用メールアドレスで相談して下さい。

01	オリエンテーションー授業の流れ＆２年間の論文作成に関わるスケジュールの説明
02	研究テーマの設定の仕方
03	研究方法の種類と用い方（１）
04	研究方法の種類と用い方（２）
05	資料・文献収集の方法（１）
06	資料・文献収集の方法（２）
07	資料・文献分析の方法（１）
08	資料・文献分析の方法（２）
09	アンケート調査やインタビュー調査の方法
10	調査結果の統計処理
11	グラフ・表の書き方
12	論文全体の構成の作り方
13	論文全体の構成案の作成
14	実践記録の事例収集
15	実践記録の読み方とまとめ
16	なし

2021年度シラバス

科目名:保育研究法Ⅱ	担当者:吉見 昌弘	開講学科等	専攻科保育専攻
		授業形態	演習
免許・資格:		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
　本授業は、多様なニーズに対応した高い能力をもつ保育と子育ての専門家を目指し、日々の保育の中から課題を見つけて、継続的に研究を重ねることで、保育に対する意識が高まり、専門性が深まることが実感できるように、自分の課題を発表したり、提案したりして、グループあるいは全員で検討する。よりよい保育を作り上げていくことができるように話し合いを重ね、保育をより科学的、理論的に追求していけるようにする。なお、本授業では直接指導に加えて適宜、音声、動画を加えた多様なメディアを高度に利用し、授業の課題や資料はmoodleなどのeラーニングも積極的に活用していく。

授業の到達目標
１学修総まとめ科目の基礎に関連する様々な研究方法や文献の読み方について理解できる
２過去の保育研究や保育実践について検討したり、保育特別実習での振り返りなどから、研究のあり方について検討することができる
３保育の実践記録を読み解くなどして、保育の研究のあり方を探求することができる

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
　保育研究をするという視点をもって、文献研究や質問紙調査を授業外の学修として探求する。さらに、保育実習に臨んでは、科学的に保育を考えるために、実践の記録を多く残し、実習を終えるごとに、論文作成の有効な資料にできるように自主学習で努力すること。なお、実習の記録は、自分の研究テーマを中心に記載し、保育を深く見つめることができるような記録にしましょう。

評価方法
授業における積極的な取り組みの様子を20%、moodleを使ったeラーニングによる課題の提出を60%、その他のレポートの提出を20%として総合的に評価する。

教科書	参考図書
特になし	授業中に指示します

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
この授業はmoodleを積極的に活用しながら指導していきます。授業に対する質問や連絡はmoodleの本授業のコースのフィーラムもしくは連絡用メールアドレスで相談して下さい。

01	実践記録の分析評価
02	実践記録を保育に生かすには（１）
03	実践記録を保育に生かすには（２）
04	実践記録のとり方（１）
05	実践記録のとり方（２）
06	実践記録を実際にとる（１）
07	実践記録を実際にとる（２）
08	実践記録の検討（１）
09	実践記録の検討（２）
10	保育内容の検討（１）
11	保育内容の検討（２）
12	保育内容指導法の検討（１）
13	保育内容指導法の検討（２）
14	保育環境構成と教材研究
15	全体のまとめ
16	なし

科目名:保育研究法Ⅱ	担当者:太田 昌孝	開講学科等	専攻科保育専攻
		授業形態	演習
免許・資格:		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須. 選択	必須

授業概要と方法
【言葉】は人間固有のコミュニケーションツールであるだけでなく、人間がその特性を生かして生きてゆくための中枢を形成する。本講義では保育者として当然身に付けなければならない言語感覚と操作能力のスキルを学ぶ。様々な文章をテキストに【言葉】が持つ本質的な内実と可能性を自ら発見す力を習得する。

授業の到達目標
①【言葉】の持つ基本的性質について理解する。②言葉の力を育てる保育者の基本的姿勢と理念について理解する。
③　①②で習得した内容を基に保育現場でのより錬磨された実践力について深く学ぶ。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
①日常生活の中で、常に幼児の発する言葉を傾聴する。②幼児向けの文学作品の読み聞かせ等を通じて、自らの言語感覚を錬磨する。③日記等を書く習慣を通じて言語操作能力を高める。

評価方法
課題20%。レポート80%の割合で評価する。

教科書	参考図書
毎回、プリントを用意する。	『こどもとことば』『未来のだるまちゃんへ』『新島襄と建学の精神』『大教育者の言葉』他。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
①系統的な講義なので欠席をしないように心がける。②講義におけるマナーを遵守する。

01	言葉と文章についてのガイダンス
02	テキストの味読とディスカッション①『子どもとことば』
03	テキストの味読とディスカッション②『子どもとことば』
04	テキストの味読とディスカッション③『子どもとことば』
05	テキストの味読とディスカッション④『子どもといっしょに読みたい詩』
06	テキストの味読とディスカッション⑤『子どもといっしょに読みたい詩』
07	討論会「言葉の力」
08	テキストの分析とディスカッション①『大教育者の言葉』
09	テキストの分析とディスカッション②『大教育者の言葉』
10	テキストの分析とディスカッション③『大教育者の言葉』
11	テキストの分析とディスカッション④『大教育者の言葉』
12	テキストの分析とディスカッション⑤『大教育者の言葉』
13	テキストの分析とディスカッション①『未来のだるまちゃんへ』
14	テキストの分析とディスカッション②『未来のだるまちゃんへ』
15	講義のまとめ
16	なし

2021年度シラバス

科目名:保育の理論と実践Ⅰ	担当者:吉田 真弓	開講学科等	専攻科保育専攻
		授業形態	演習
免許・資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
【担当者の実務経験】幼稚園教諭、保育園保育士
この授業では、幼稚園や保育園での現場経験を活かし、絵本に関する基礎知識を学び実践的なスキルを修得できるようにする。また、グループワークや発表等を通して保育者に必要な指導能力、表現力を身に付ける。

授業の到達目標
・保育と子育てに関する高度な専門知識と実践的技能の修得に関連し、保育実践において重要な子どもの文化である絵本についての知識および理解を深める。
・発表等を通して豊かな表現力および実践力を身に付ける。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
日頃から絵本など子どもの文化に関心をもち、触れるようにする。また、保育ボランティアや実習などで、積極的に絵本の読み聞かせなど絵本の体系①の実践を行い、絵本の効果的な選び方や読み聞かせの実践方法などを考察する。

評価方法
授業への参加態度（30%）　課題・発表（40%）　レポート（30%）

教科書 レジュメ等を配布	参考図書

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)

01	オリエンテーション
02	絵本論①
03	絵本論②　グループワーク
04	絵本論③
05	絵本論④
06	絵本の体系①
07	絵本の体系②
08	絵本の体系③
09	グループワーク
10	絵本の実践①
11	絵本の実践②
12	絵本の実践③
13	絵本の魅力 絵本の魅力①
14	絵本の魅力②
15	まとめとレポート
16	

2021年度シラバス

科目名:保育の理論と実践Ⅰ	担当者:杉山 実加	開講学科等	専攻科保育専攻
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法 国際的な視野を広げるため、国内での保育において異文化や英語をどのように扱っていくべきかについて、5回前後のグループワークやディスカッションなどを行いながら考えを深めていく。また、後期の「保育の理論と実践Ⅱ」では、より実践や実際の仕事を見据えた課題に取り組むため、そのために必要な知識・技術の習得を目指す。【AL】
授業の到達目標 1、これまで身に付けてきた理論や発想をもとに、保育実践について具体的に考え発表することができる。 2、国内における異文化理解・英語学習に関する知識と実践力を身に付ける。 3、保育の計画や事例を読み解くなどして、保育の研究の在り方を身に付ける。
授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修 授業内での発表に向けての準備や資料作成を個人またはグループで行う。
評価方法 授業態度10%　各授業での発表・課題60%　グループワークへの取り組み30%

教科書	参考図書 保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)

01	オリエンテーション、授業全体の流れの確認
02	日本における異文化理解・英語教育（1）現状を知る
03	日本における異文化理解・英語教育（2）具体的場面を題材に援助を検討する
04	日本における異文化理解・英語教育（3）検討内容の発表
05	英語の手遊び・表現遊びを習得する
06	英語の手遊び・表現遊びを教えあう
07	インターナショナルスクールを調査する
08	調査内容の共有（発表）
09	オーストラリアの保育を学ぶ（文献読解・PowerPoint作成）
10	オーストラリアの保育を学ぶ（発表）
11	日本の行事と英語（英語での紹介に向けての題材選びとチーム編成）
12	日本の行事と英語（チームでの発表準備）
13	日本の行事と英語（発表）
14	小学校の外国語教育との接続
15	授業全体のまとめ・確認テスト
16	

2021年度シラバス

科目名:保育の理論と実践Ⅱ	担当者:杉山 実加	開講学科等	専攻科保育専攻
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法 高度な専門性を持った保育者となるために、実際の保育現場でのさまざまな業務内容や活動を題材として、自分たちであればどのように展開・実践を行うかをグループで具体的に検討し発表する。検討・発表活動を通して、課題解決能力を養うとともに、実践に関するPDCAを通して実践力を育成する。【AL】
授業の到達目標 1　企画・立案・準備において、これまでに身に付けた理論や発想を具体化することができる。 2　グループワークを通して通してコミュニケーション力・実践力を身に付ける。 3　実践の省察を通してよりよい実践のために必要な技術・理論・視点に気付き、新しい企画を構想することができる。
授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修 1　学習に必要な復習や短期大学時の学びの振り返りを積極的に行うこと。 2　グループで取り組む課題に関して、授業以外でも必要な準備や話し合いを行うこと。
評価方法 授業態度10%　発表・実践50%　準備状況40%程度として総合的に評価します。

教科書	参考図書 保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)

01	授業オリエンテーション
02	実践を通して保育に向き合う①（題材検討・チームごとの準備）
03	実践を通して保育に向き合う②（チーム1の内容）
04	実践を通して保育に向き合う③（チーム2の内容）
05	実践を通して保育に向き合う④（チーム3の内容）
06	実践を通して保育に向き合う⑤（チーム4の内容）
07	問いを見つける力（1）奇抜な実践を題材に
08	問いを見つける力（2）エピソード事例を題材に
09	英語を取り入れた活動の模擬保育を計画する
10	PDCAを実践に取り入れる（模擬保育・ブレインストーミング・KJ法）
11	理想と現実に向き合う①（話し合い・題材検討）
12	理想と現実に向き合う②（発表準備・資料作成）
13	理想と現実に向き合う③（発表）
14	園外保育に関する保育者の援助・配慮
15	授業のまとめ・確認テスト
16	なし

2021年度シラバス

科目名:保育の理論と実践Ⅱ	担当者:青山 裕美	開講学科等	専攻科保育専攻
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:国内タイプ		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
【担当者の実務経験】保育園園長
この授業科目では、実務経験を活かし、保育の方法や内容に関する知識と保育の実践の場での保育技術・計画的保育を実践的に学ぶことができるようにする【AL】

保育現場での実践で感じていることや疑問に思ったことを文献から学んだり、グループで討議したりしながら考えを深める。保育者として自分の姿を振り返り考える力を養う。計画的な保育実践をする必要性について学ぶ。

授業の到達目標
・保育や保育者について知識を深める
・領域別の内容について理解を深め、計画に基づく保育実践を考える。
・

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
保育実習におけるエピソードや事例を整理して、疑問や課題についてまとめておくこと。
保育実践でしてみたいことを事前に考え、調べておくこと。

評価方法
授業やグループ活動への参加態度（３０％）　保育実践や課題発表（４０％）レポート（３０％）

教科書	参考図書

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)

01	授業について
02	理想の保育者像を考える
03	保育者の専門性とは①
04	保育者の専門性とは②
05	子どもをどう見るのか①（エピソードから考える）
06	子どもをどう見るのか②（エピソードから考える）
07	子どもをどう見るのか③（事例のまとめ）
08	計画に基づく保育実践①
09	計画に基づく保育実践②
10	計画に基づく保育実践③
11	計画に基づく保育実践④
12	計画に基づく保育実践⑤（実践からの学びのまとめ）
13	保育者の成長とは
14	理想の保育をするために
15	まとめ　レポート
16	

科目名:障害児福祉特論	担当者:川上 知幸	開講学科等	専攻科保育専攻
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
ソーシャル・インクルージョン（社会的包摂）が推進される我が国社会において、身体や発達に障害を抱える子どもが住み慣れた地域で生き生きと生活するために、支援者にもとめられる資質や知識、技術を総合的に理解することを目的とする。講義を中心とするが、ディスカッションも取り入れる。意見交換を通して創造的に学んでいく。
【担当者の実務経験】児童心理治療施設・児童養護施設職員
　障害児、家族への支援の実際や直面している課題について触れながら、実践的な考察を行う。

授業の到達目標
① 障害児の支援に関する基礎的知識、技術について理解し、支援者として実践できる。
② 障害児の家族のニーズの把握とソーシャルワークを実践できる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
① 施設ボランティア及び障害児施設、病児保育のボランティア等に積極的に参加する。
　（新型コロナウイルスの感染拡大状況による）
② 我が国における障害児施策の現状と課題については自ら進んで情報を得て、理解に努めること。

評価方法
確認テスト（60%）、レポート（20%）、受講態度および振り返りシート（20%）を総合的に評価する。

教科書	参考図書
無し	授業中に適宜紹介する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
障害児やその家族が抱える生活上の困難を積極的に理解するように努めてください。関係する学外の研修等には積極的に参加し自己研鑽を図ってください。

01	オリエンテーション
02	児童の権利擁護、「障害」の捉え方
03	障害の理解：発達障害①
04	障害の理解：発達障害②
05	障害の理解：アタッチメント（愛着）障害①
06	障害の理解：アタッチメント（愛着）障害②
07	障害の理解：精神障害、知的障害
08	障害の理解：身体障害、視覚障害
09	施設福祉、在宅福祉の現状と課題
10	養育者、保育者の不適切な関わりと施設内虐待
11	障害児の家族に対する支援と課題
12	事例①
13	事例②
14	保育現場における障害児支援と社会資源
15	総まとめと確認テスト
16	

2021年度シラバス

科目名:乳児保育特論	担当者:青山 裕美	開講学科等	専攻科保育専攻
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
【担当者の実務経験】保育園園長
この授業科目では、実務経験を活かし、乳児保育を実際に運営するために必要な基礎的な知識と乳児保育の実践の場を作るための保育技術を実践的に学ぶことができるようにする【AL】

乳児保育の基本的理解を土台として、乳児保育の実践に必要な知識を深め、発達に沿った柔軟で具体的な保育内容を構成する力を養う。

授業の到達目標
・乳児保育をめぐる現状を理解し、乳児保育に関する制度の概要を理解する。
・乳児保育の重要性について理解を深める。
・乳児保育に関する知識と保育実践経験の振り返りから、柔軟に思考する力や判断する力を身に付ける。
・理想の乳児保育を実現するために必要なことを考え、乳児保育室の具体的計画を考える。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
乳児保育に関するニュースや記事等の情報に目を通すこと。
グループ活動に必要な準備学修や資料の収集を行うこと。

評価方法
グループ活動への参加態度（30%）　提出物・発表（４0%）　レポート（30%）

教科書	参考図書
なし。適宜配布する。	保育所保育指針

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)

01	乳児保育の現状と課題
02	乳児期の発達（乳児の気持ちを理解する）
03	乳児の生活　（基本的生活習慣の自立と援助）
04	乳児の生活　（保育者の関わりと愛着形成）
05	保育中の重大事故について考える（重大事故事例とその原因）
06	保育中の重大事故について考える（事故防止と子どもにとって必要な保育）
07	理想の乳児保育を考える（理想を具体化するために）
08	乳児保育室を作ろう！（乳児保育のニーズについて考える）
09	乳児保育室を作ろう！（理想の乳児保育の理念や方針・全体的な計画を立てる）
10	乳児保育室を作ろう！（具体的な保育内容・環境を考える）
11	乳児保育室を作ろう！（重要事項説明書から説明責任について考える）
12	乳児保育室を作ろう！（具体化した理想の保育室についてまとめる）
13	理想の乳児保育室の個人またはグループによる発表
14	乳児保育のこれからを考える
15	まとめ　レポート
16	

科目名:海外保育研修	担当者:平野朋枝・新沼英明	開講学科等	専攻科保育専攻
		授業形態	実習
免許･資格:		開講時期	通年
		配当学年	1
受講者制限:専攻科留学タイプの学生に限る		単位数	6
		必須.選択	選択

授業概要と方法
オーストラリアの教育提携校の保育コースで保育研修プログラムに参加することで、オーストラリアの保育士資格（Certificate III in Early Childhood Education and Care）の取得を目指す。渡航及び現地での生活に必要な事前学習、現地校での保育コースでの研修、帰国後の事後指導の３つを合わせて６単位を認定する。現地では、他国の学生たちと同じクラスでオーストラリアの保育を学び、資格の取得を目指していく。

授業の到達目標
オーストラリアの保育士資格取得に必要な所定の保育コースを履修していくことで、オーストラリアの保育に必要な知識、技術の習得することを目標とする。
なお、実習時間等はオーストラリアの提携校と協議の上、本学専攻科委員会で定めた時間とする。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
日本で学んだ保育の知識、技術を生かしながら、さらなる視野を広げる意味でもオーストラリアの保育について学びます。また日本とオーストラリアの保育の違いや共通点を意識することでさらに保育の専門性を高め、国際的な視野をもつことを目指します。
なお、本科目に必要な実習を通して「学修の総まとめ」の論文執筆に必要なデータ収集（文献収集、インタビュー等）を行うこととするが、その実施方法、倫理的配慮については指導教員の十分な指導を受けることとする。

評価方法
事前指導の出席状況や学習成果20%現地校の担当者による評価（保育の課題、授業参加状況、態度など）60%事後指導として課される報告書20%なお保育コース中間時に担当教員による実習訪問指導を実施し、研修プログラムへの助言と補習を行う

教科書	参考図書

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
この授業は、専攻科留学タイプを対象とした授業です。事前の留学指導教育を受けた上で、現地での保育コースでの研修に参加します。帰国後は「学修の総まとめ」（学位論文）の執筆にその経験・知見を活かしましょう。

01 渡航前：オーストラリアへ留学するための事前指導が複数回行われ、留学への準備を進める
留学時：まず語学学校にて保育コース出席に十分となる所定の語学力を満たした上で、オーストラリアの専門学校の保育コースにて学ぶ。保育コースの専門学校にて、各ユニットごとに課された所定の課題をクリアすることでオーストラリアの保育士の資格取得と海外の保育に必要な知識や技術を習得する。
事後指導：帰国後に、現地での学習の再確認と振り返りのための報告書を提出する。また別途指示する実習ノートを提出すること。

＊新型コロナウイルス等の感染症、紛争等社会情勢の変化により渡航予定が遅れたり、短縮したり、渡航できない場合があります。

2021年度シラバス

科目名:情報処理特演	担当者:上原 隆司	開講学科等	専攻科保育専攻
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
保育の現場やそれを取り巻く環境においても、情報技術の普及が著しい。この授業では保育の場面で有用となりうる情報処理の技術をピックアップし、それらを保育者となってから使いこなしていけるための基礎を演習を通して身につけることを目標とする。また、アンケート調査などで取ったデータを処理して学位論文をまとめ、発表していくための方法についても演習を通して学ぶ。

授業の到達目標
保育の場面で活用できる情報処理技術を身につける。学位論文の執筆と発表に際して、データを適切に処理し、求められる形で文書を作成し、内容を効果的に伝えるためのパソコンの使い方を身に付ける。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
これまでに学んできた情報リテラシーをあらかじめ復習しておいてから授業に臨むこと。習得したことを今後保育の場面で活かせるよう、機会を見つけて復習をすること。

評価方法
授業への参加態度 50%、課題レポート・制作物等 50%。

教科書	参考図書

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
情報処理技術の習得には自らによる実践が不可欠である。グループでの作業にも積極的に参加すること。

01	ガイダンスと情報リテラシーの復習
02	表とグラフの作成
03	統計的処理の考え方と演習１
04	統計的処理の考え方と演習２
05	Wordの機能の復習と文書作成
06	論文作成のためのWordの機能の活用
07	プレゼンテーション演習１
08	プレゼンテーション演習２
09	静止画像を利用した Word の保育への応用
10	静止画像を利用した Excel の保育への応用
11	静止画像を利用した PowerPoint の保育への応用
12	パソコンを利用した制作1
13	パソコンを利用した制作2
14	パソコンを利用した制作3
15	パソコンを利用した制作4
16	なし

科目名:子育て支援特演	担当者:吉見 昌弘	開講学科等	専攻科保育専攻
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
本授業は、国際的・地域的な問題解決能力を有する者を目指し、これまでに学んだ知識を実践に生かしていきます。そのために地域の子育て支援に関する情報収集やネットでの情報発信、施設への見学、実践への参加を経験しながら子育て支援の実践力を高めていきます。実際の授業の展開においては構内の施設（大学図書館等）や地域の子育て支援施設等と連携しながらアクティブラーニングを用いて学生が主体となって子育て支援の実践を展開します。なお、授業の課題はmoodleを利用したeラーニングを活用します。

授業の到達目標
1　国内及び国際的な視野をもって子育て中の家族を取り巻く社会状況を理解できる
2　少子化の問題やどのような子育て支援が必要であるか説明することができる
3　地域の子て支援活動について、支援する者の資質や具体的な支援方法を考えて実践することができる

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
準備学修として、次回の授業前に課題を出します。その課題を次回授業までに作成して下さい。さらに、実践活動においては、そのための事前準備を主体的に実施して下さい（授業毎に２時間）。事後学修においては、授業で学んだ事を実践に生かす話し合いをグループで実施すること。実践後には、振り返りで反省会等を各グループで実施して下さい（授業毎に２時間）。

評価方法
授業・実践活動への参加態度や提出物を70%、最後のレポート30%を目安として総合的に評価します。なお、なお本授業では、指示しない限りスマホ、携帯電話の使用及び飲食を禁止します。

教科書	参考図書
授業中に指示します	授業中に指示します

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
この授業は学生自身がアクティブに取り組むことが要求されます。教員が指示するよりも、与えられた課題について主体的に取り組んで下さい。必要な課題があればmoodleへ提示します。適宜参照して下さい。なお、質問等は授業の前後やオフィスアワー（授業のある日のお昼休み）とし、連絡先は授業時に開示します。

01	オリエンテーション（授業全体の流れ、授業の進め方やルールの説明）
02	自治体による地域の子育て支援活動　　※以下、順番は状況に応じて入れ替わります
03	企業・NPOなどによる地域の子育て支援活動
04	図書館などによる地域の子育て支援活動
05	多様なメディアを用いた子育て情報の提供
06	地域の子育て支援活動の見学
07	地域の子育て支援活動の調査
08	地域の子育て支援の実践（１）テーマの設定　※構内もしくは地域の施設を利用して実践します
09	地域の子育て支援の実践（２）チラシ作成と宣伝
10	地域の子育て支援の実践（３）指導案の作成
11	地域の子育て支援の実践（４）準備・製作活動
12	地域の子育て支援の実践（５）実践の展開グループ１（実践テーマ未定）
13	地域の子育て家庭の実践（６）実践の展開グループ２（実践テーマ未定）
14	地域の子育て家庭の実践（７）実践の展開グループ３（実践テーマ未定）
15	まとめとレポート提出
16	なし

科目名:保育特別実習	担当者:平野 朋枝・新沼 英明	開講学科等	専攻科保育専攻
		授業形態	実習
免許・資格:		開講時期	通年
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	6
		必須. 選択	必須

授業概要と方法
専攻科における実習は、すでに資格や免許を取得した立場で保育実践を深め、保育の実践力を身につけるために行う。学生それぞれが個別に実習課題を立てて臨み、理論と実践の統合に向け、自主的かつ積極的に取り組むようにする。また、この実習で観察や実践したことを学位論文にまとめ、保育現場に出てからも保育実践研究が継続ができるようにする。

授業の到達目標
実習課題や実習において生じた問題と向き合い、積極的に指導を受けながら実践的に学びを深めるようにする。長期の実習を通して、保育者の専門性を深め、保育に対する研究の目を養うようにする。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
実習に当たっては、事前に現場に役立つ保育技術や教材を研究・準備しておくこと。実習の記録は独自の工夫で、子ども理解、環境の構成、保育者の動きや子どもとのかかわりなど、きめ細かな記録が取れるように努力すること。

評価方法
実習の中間報告 40%、実習の記録 60%

教科書	参考図書
特になし	特になし

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
自分の目的に沿って積極的に実習に取り組むこと。

01 合計40日間の保育現場での実習を行い、子どもの姿や保育者の姿をよく観察して、自分が保育者になることを自覚しながら、実践的に学習する。子どもと積極的にかかわり、子ども理解を深めること、保育者の仕事内容や役割について理解する。資格や免許を持つ者として、様々な角度から保育を考えていけるようにする。また、保育職従事者としての責任を深く理解し、自分の保育観を磨き、一歩踏み込んだ子どもとのかかわりから、子どもへの理解も深める。

科目名:保育特別実習	担当者:小島　千恵子・小川　絢子	開講学科等	専攻科保育専攻
		授業形態	実習
免許･資格:		開講時期	通年
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	6
		必須. 選択	必須

授業概要と方法
【担当者の実務経験】保育園長
　専攻科における実習は、すでに資格や免許を取得した立場で保育実践を深め、保育の実践力を身につけるために行う。元園長の実務経験を踏まえ、学生にその専門性を深く伝授するようにし、学生それぞれが個別に実習課題を立てて臨み、理論と実践の統合に向け、自主的かつ積極的に取り組むようにする。また、学位論文作成のためのフィールドワークとしても活用できるようにし、保育現場に出てからも保育実践研究が継続ができるようにする。

授業の到達目標
実習課題や実習において生じた問題と向き合い、積極的に指導を受けながら実践的に学びを深めるようにする。長期の実習を通して、保育者の専門性を深め、保育に対する研究の目を養うようにする。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
実習に当たっては、事前に現場に役立つ保育技術や教材を研究しておくこと。実習の記録は独自の工夫で、子どもを理解すること、環境の構成について、保育者の動きや子どもとのかかわりなど、きめ細かな記録が取れるように努力すること。

評価方法
実習の記録　100％

教科書	参考図書
特になし	特になし

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
自分の目的に沿って積極的に実習に取り組むこと。

01	自身の研究テーマ及び研究の目的に沿って自ら選んだ実習先で週2日間の実習を行い、子どもの姿や保育者の姿をよく観察して、自分が保育者になることを自覚しながら、実践的に実習する。子どもと積極的にかかわり、子ども理解を深めること、保育者の仕事内容や役割について理解し、自らも資格や免許を持っている立場で、様々な角度から保育を考えていけるようにする。また、仕事として保育を行うことについて、深く理解し、自分がどのような保育がしたいのか、保育観を磨き、一歩踏み込んだ子どもとのかかわりから、子どもへの理解も深めていく。

2021年度シラバス

科目名:保育特別実習指導	担当者:平野 朋枝・新沼 英明	開講学科等	専攻科保育専攻
		授業形態	講義
免許・資格:		開講時期	通年
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
　本科目は、専攻科特別実習のための事前指導、実習中指導、実習後指導として位置づけられている。専攻科での保育特別実習は、有資格者としての自覚を持ち、より主体的、実践的、専門的な課題をもって望む必要がある。長期の実習の意義を理解し、自分なりの目的意識を持って実習に望むための準備をする。保育計画や教材準備の発表、集団討論などを通して、専門家としての力量を高めるようにする。

授業の到達目標
・保育特別実習の意義を理解し、自己課題を明確にする。
・実習する施設について理解する。
・担当する子どもについて理解する。
・常に自己研鑽する姿勢を身に付ける。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
実習する施設の環境やそこに通う子どもについての情報収集をする。
自己課題に応じた学びの観点を明確にし、実習記録を作成する。

評価方法
授業への取り組み状況30%　実習記録40%　レポート30%

教科書	参考図書
なし	

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)

01	保育特別実習の意義
02	実習目的及び実習方法の検討
03	自己課題の設定
04	実習における長期計画の立案
05	自主研究課題の設定
06	子どもの遊びから幼児理解を深める
07	教材研究
08	保育現場における環境構成
09	保育実践記録の取り方
10	実習中の課題と対応方法の検討
11	実習への取り組みの振り返り
12	実習園の環境構成のまとめと意見交換 保護者との提携・子育て支援のあり方を調べる 保護者との提携・子育て支援のあり方を調べる保護者との提携・子育て支援のあり方を調べる 12 保護者との提携・子育て支援のあり方を調べる 12 保護者との提携・子育て支援のあり方を調べる 12 保護者との提携・子育て支援のあり方を調べる 12 保護者との提携・子育て支援のあり方を調べる 保護者との提携・子育て支援のあり方を調べる
13	子どもへの援助についてのまとめと意見交換
14	保護者との提携・子育て支援のあり方
15	まとめと今後の課題
16	

科目名:保育特別実習指導	担当者:小島　千恵子・小川　絢子	開講学科等	専攻科保育専攻
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	通年
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須. 選択	必須

授業概要と方法
【担当者の実務経験】保育園長
　専攻科の実習は、有資格者としての自覚を持ち、より主体的に、実践的かつ専門的な課題をもって臨む必要がある。元園長の実務経験を踏まえて、保育の記録や省察の重要性を学生に保育の実例を取り上げながら教授し、学生が自己の実習記録などを基に課題を持ちながら、専門性を高めていけるような実習ができるようにする。実習において観察した子どもの姿や、実践記録を発表して集団で討論したり、事例検討などを通して、保育の専門性や力量を向上させていくようにする。常に自分の保育と向き合って、省察して次に生かす姿勢を持つことができるようにする。

授業の到達目標
　実習における実践的かつ専門的な課題に対して、主体的に取り組み、保育への対応力が持てるようにする。また、実習における記録などを基に、実践について発表し、討論などを通して、保育観を磨き保育者像を確立していくようにする。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　週2日間の実習を無駄にしないように、実習の実践記録などを整理し、その記録から課題や問題を見つけ出すなど、保育に向き合う姿勢を常に持っているように心がけること。実習で見つけた問題課題については、その解決策を積極的に探るようにすること。わからないときは、実習先の指導者に質問するなど、前向きに取り組むようにする。

評価方法
実践についての討論への参加の様子と発表　60%　授業中の課題・実習の振り返り　40%

教科書	参考図書
特になし	適宜紹介する

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
保育科の実習ではないことを十分に理解して実習に取り組み、オリジナルな記録が残せるように工夫してください。

01	実習における自己研究課題の設定
02	実習園での実習の仕方についての検討
03	子ども理解の理論と方法
04	子ども理解の理論と方法
05	実習園における子どもの姿についての報告及び情報交換と事例検討①と発表
06	実習園における子どもの姿についての報告及び情報交換と事例検討②と発表
07	実習園における子どもの姿についての報告及び情報交換と事例検討③と発表
08	子どもの遊び　主体的に遊ぶとは　遊びの中の試行錯誤
09	子どもの遊びの変遷
10	エピソード記述の意義と記述の方法
11	エピソード記述のまとめ方と活用方法
12	子どもが主体的に遊ぶための環境づくり①
13	子どもが主体的に遊ぶための環境づくり②
14	実習における記録と実践の発表　実習前半　①
15	実習における記録と実践の発表　実習前半　②
16	実習前半の学びと省察
17	実習から見える保育の今日的課題①課題提案とディスカッション
18	実習から見える保育の今日的課題②課題提案とディスカッション
19	実習から見える保育の今日的課題③課題提案とディスカッション
20	実習から見える保育の今日的課題④課題提案とディスカッション
21	実習から見える保育の今日的課題⑤課題提案とディスカッション
22	実習から見える保育の今日的課題⑥課題提案とディスカッション
23	実習から見える保育の今日的課題⑦課題提案とディスカッション
24	実習から考える自分の保育観の整理①
25	実習から考える自分の保育観の整理②
26	実習から考える自分の保育観の整理③
27	理想の保育者像の確認と自分の課題の整理(意見交換)
28	理想の保育者像の確認と自分の課題の整理(意見交換)
29	理想の保育者像の確認と自分の課題の整理(意見交換)
30	実習からの学びのまとめ
31	なし

2021年度シラバス

科目名:学修総まとめの基礎Ⅰ	担当者:近藤 茂之・高田 吉朗・高須 裕美・平野 朋枝・吉見 昌弘・小川 絢子・山下 直樹・太田 昌孝・小柳 雅子・上原 隆司・新沼 英明・吉田 真弓・杉山 実加・橋村 晴美・青山 裕美・小島 千恵子・八幡 美保	開講学科等	専攻科保育専攻
		授業形態	演習

免許･資格:	開講時期	前期
	配当学年	1
受講者制限:	単位数	2
	必須.選択	必須

授業概要と方法
　本授業は、保育と子育ての諸問題について、学修成果である論文を作成する過程を経て、保育と子育てに対して理論的・実践的に考究する能力を身につけることを目指します。実際の授業においては、個々の学生の研究テーマに応じて学修の成果を論文（中間報告含む）としてまとめる過程で、研究テーマの選定から研究目的、方法へと段階を踏みながら個別指導を展開します。なお、本授業では直接指導に加えて適宜、音声、動画を加えた多様なメディアを高度に利用し、授業の課題はmoodleを利用したeラーニングを活用します。

授業の到達目標
　以下の項目について学ぶことで、将来、保育者として身につける資質を育成することを目標とします。
1　学修成果である論文のテーマ探しを通して、保育・教育を研究する技能と能力を理解できる
2　文献や先行研究を調査することで、保育全般の課題や問題意識を理解できる
3　保育（教育）実習を通してその成果を記録、考察することで、実践的な課題を明確にできる

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
準備学修として、授業前に指導教員から与えられた課題をまとめ、報告できるように準備をすること（授業毎に２時間）。
事後学修としては、指導を受けた後、指導の内容を論文に反映できるよう、自分なりに研究し、考察する過程を繰り返すこと（授業毎に２時間）。

評価方法
授業への参加・取組状況を50%、提出された課題、論文（中間報告書含む）の内容50%を目安に評価する。

教科書 授業時に指示します	参考図書 授業時に指示します

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
この授業は、学生自身が主体的に課題に取り組むことが前提です。教員から指示されたことを守るのみでなく、自分から課題を見つけ、積極的に取り組むことを心がけ、質問等があればオフィスアワー（授業のある日のお昼休み）の時に来訪して下さい。連絡先は授業時に開示します。

01	年間の授業の流れの説明（オリエンテーション
02	論文のテーマ検討（１）学生からテーマ報告
03	論文のテーマ検討（２）テーマの修整
04	論文のテーマ検討（３）仮テーマ決定
05	研究計画の作成（１）前期計画
06	研究計画の作成（２）後期計画
07	先行研究・事例の収集（１）著書等
08	先行研究・事例の収集（２）紀要等
09	先行研究・事例の収集（３）報告書等
10	先行研究・事例の分析と検討（１）著書等
11	先行研究・事例の分析と検討（２）紀要等
12	先行研究・事例の分析と検討（３）報告書等
13	論文の構成（１）章立て作成
14	論文の構成（２）章立て再修正
15	論文の中間報告書作成・提出
16	なし
17	研究資料の収集（２）民間施設資料
18	研究資料の分析と検討（１）行政資料
19	研究資料の分析と検討（２）民間施設
20	事例研究・統計調査の方法（１）幼稚園
21	事例研究・統計調査の方法（２）保育所
22	事例研究・統計調査の方法（３）その他
23	実習における研究方法（１）指導案
24	実習における研究方法（２）環境構成
25	実習における研究方法（３）遊びの展開
26	論文の目的と再構成（１）全体の把握
27	論文の目的と再構成（２）全体の見直し
28	論文の目的と再構成（３）最終調整
29	論文の報告書作成・提出

30	総括（論文の報告書提出含む）
31	なし

科目名:学修総まとめの基礎Ⅱ	担当者:近藤 茂之・高田 吉朗・高須 裕美・平野 朋枝・吉見 昌弘・小川 絢子・山下 直樹・太田 昌孝・小柳 雅子・上原 隆司・新沼 英明・吉田 真弓・杉山 実加・橋村 晴美・青山 裕美・小島 千恵子・八幡 美保	開講学科等	専攻科保育専攻
		授業形態	講義

免許･資格:	開講時期	後期
	配当学年	1
受講者制限:	単位数	2
	必須.選択	選択

授業概要と方法
本授業は、学修総まとめの基礎Ⅰ（前期）を発展させたものである。保育と子育ての諸問題について、学修成果である論文を作成する過程を経て、保育と子育てに対して理論的・実践的に考究する能力を身につけることを目指します。実際の授業においては、個々の学生の研究テーマに応じて学修の成果を論文（中間報告含む）としてまとめる過程で、研究テーマの選定から研究目的、方法へと段階を踏みながら個別指導を展開します。なお、本授業では直接指導に加えて適宜、音声、動画を加えた多様なメディアを高度に利用し、授業の課題はmoodleを利用したeラーニングを活用します。

授業の到達目標
以下の項目について学ぶことで、将来、保育者として身につける資質を育成することを目標とします。
1　学修成果である論文のテーマ探しを通して、保育・教育を研究する技能と能力を理解できる
2　文献や先行研究を調査することで、保育全般の課題や問題意識を理解できる
3　保育（教育）実習を通してその成果を記録、考察することで、実践的な課題を明確にできる

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
準備学修として、授業前に指導教員から与えられた課題をまとめ、報告できるように準備をすること（授業毎に２時間）。事後学修としては、指導を受けた後、指導の内容を論文に反映できるよう、自分なりに研究し、考察する過程を繰り返すこと（授業毎に２時間）。

評価方法
授業への参加・取組状況を50%、提出された課題、論文（中間報告書含む）の内容50%を目安に評価する。

教科書 授業時に指示します	参考図書 授業時に指示します

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
この授業は、学生自身が主体的に課題に取り組むことが前提です。教員から指示されたことを守るのみでなく、自分から課題を見つけ、積極的に取り組むことを心がけ、質問等があればオフィスアワー（授業のある日のお昼休み）の時に来訪して下さい。連絡先は授業時に開示します。

01	研究資料の収集（１）行政資料
02	研究資料の収集（２）民間施設資料
03	研究資料の分析と検討（１）行政資料
04	研究資料の分析と検討（２）民間施設
05	事例研究・統計調査の方法（１）幼稚園
06	事例研究・統計調査の方法（２）保育所
07	事例研究・統計調査の方法（３）その他
08	実習における研究方法（１）指導案
09	実習における研究方法（２）環境構成
10	実習における研究方法（３）遊びの展開
11	論文の目的と再構成（１）全体の把握
12	論文の目的と再構成（２）全体の見直し
13	論文の目的と再構成（３）最終調整
14	論文の報告書作成・提出
15	総括（論文の報告書提出含む）
16	なし

2021年度シラバス

科目名:文学の世界	担当者:太田 昌孝	開講学科等	専攻科保育専攻
		授業形態	講義
免許・資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
本講義は桜花学の「人間を知る」という群に配置された大学共通教養科目である。この群の内容は、芸術や文学、心理学、哲学を通じて人間や人間の心の諸相を把握するというものである。本講義では､前述の内容を踏まえ、主に宮沢賢治の作品分析及びその考え方、視点、生き様などを学ぶことにより、言語芸術の持つ特性について学修し、人間性を涵養する。

授業の到達目標
①保育者として不可欠な豊かな言語感覚と論理的思考力を身につける。②保育現場で教材として用いる童話の構成および特性について学ぶ

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
①　文学の基礎知識を習得する。②　小説や詩という文芸を学ぶことにより、言語感覚を錬磨し、作品鑑賞の力を習得する。

評価方法
講義に取り組む姿勢、ミニレポート・創作（不定期/20）、定期試験（レポート/80）によって評価する。

教科書	参考図書
プリントを用意します。	『宮沢賢治全集』筑摩書房

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
系統的な講義なので欠席をしないように。

01	講義概説（講義の目標とその概説）
02	宮沢賢治入門1（宮沢賢治の生涯）
03	宮沢賢治入門2（宮沢賢治と岩手）
04	作品鑑賞1（宮沢賢治の詩1）「雨ニモ負ケズ」
05	作品鑑賞2（宮沢賢治の詩2）「稲作挿話」
06	作品鑑賞3（宮沢賢治の詩3）「冬のスケッチ」
07	作品鑑賞4（宮沢賢治の詩4）「春と修羅」（序）
08	作品鑑賞5（宮沢賢治の詩5）「永訣の朝」
09	作品鑑賞6（宮沢賢治の詩6）「青森挽歌1」
10	作品鑑賞７（宮沢賢治の詩7）「青森挽歌2」
11	作品鑑賞8（宮沢賢治の童話1）「どんぐりと山猫」
12	作品鑑賞9（宮沢賢治の童話2）「虔十公園林」
13	作品鑑賞10（宮沢賢治の童話3）「ざしき童子の話」
14	作品鑑賞11（宮沢賢治の童話4）「セロ弾きのゴーシュ」①
15	作品鑑賞12（宮沢賢治の童話5）「セロ弾きのゴーシュ」②
16	なし

2021年度シラバス

科目名:環境の科学	担当者:辻 広志	開講学科等	専攻科保育専攻
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
この授業では、様々な生態系における環境問題と生物の保全対策について学び、ヒトと自然の共生のあり方について考える。配布プリントによる講義を中心に、視聴覚教材、現物資料の提示、実習、新聞記事、インターネット等を通して、自然環境や野生生物に対する理解を深める。【AL】

授業の到達目標
地球環境、生物多様性、生態系のしくみについて理解し、環境保全活動の実践方法を知る。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
自宅周辺にはどのような動植物が生息しているか調べる。環境問題や野生生物に関する最新の情報を、新聞、雑誌、テレビ、インターネット等で入手する。

評価方法
レポート点50%、平常点50%（授業感想文、授業への参加態度）で総合評価する。

教科書	参考図書
使用しない	授業中に適宜紹介する

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
「エコ検定」等の環境に関する資格検定取得を目指す学生は是非受講してください。質問等がある場合は、研究管理棟２Ｆの218研究室に来てください。

01	イントロダクション：環境問題と私たちの暮らし
02	生物多様性の危機の現状：世界のカエル類の約３割は絶滅の危機に瀕している！
03	生態系のしくみ：オオカミが自然を守っている？
04	植物の種子散布：身近な雑草の繁殖戦略
05	野外実習1：キャンパスの樹木観察
06	侵略的外来種：アカミミガメ、ブラックバス、アライグマが日本の生態系を破壊する
07	環境変動による環境負荷：地球温暖化が生物に及ぼす影響
08	有害化学物質による環境汚染：「沈黙の春」と「メス化する自然」
09	生態系の保全：世界自然遺産の光と影
10	希少種の保全：レッドデータブックで絶滅危惧生物を調べよう
11	企業・市民による環境保全活動：企業の環境報告書を読もう
12	自然再生事業：「ビオトープ」は生物の避難場所
13	女子学生の自然体験：身近な生き物アンケート
14	野外実習2：キャンパスの五感マップ作り
15	まとめと確認
16	なし

2021年度シラバス

科目名:専攻科基礎演習Ⅰ	担当者:平野朋枝・新沼英明	開講学科等	専攻科保育専攻
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:留学タイプ		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
　本講義は円滑な留学生活の実施を目指しながら、問題発見・課題解決能力の醸成を目指し、受講者同士の意見交換や発表をとおし、確かな専門性と豊かな専門性の獲得を目指します。（新型コロナウイルス等の感染症の流行、紛争等の社会情勢の変化により、シラバスの内容が変更される場合があります。）

授業の到達目標
1.短大での学修を土台とし、より高度な専門性を培う専攻科での学修の基礎を固める。
2.他者と協調・協働して課題に取り組み、解決しようと努力することができる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　本科目は留学タイプの学生を対象にしています。したがって日頃から語学学修に取り組むとともに、自ら異文化を理解するよう各々が意欲的に学修に取り組んでください。各回毎に課題を出しますが、概ね授業前後2時間程度の学修が必要です。

評価方法
授業への参加意欲と積極性（20%）、課題への取り組みと提出物の評価（50%)、レポート等（30%)
なお、欠席の場合は別途課題を課す。

教科書	参考図書
なし	適宜紹介する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
留学生活を円滑に行うための必須の授業です。課題等に真摯に取り組むこと。また、対面授業のほかskype等のメディアを利用することがあります。

01	オリエンテーション、オーストラリアの理解①
02	オーストラリアの理解②
03	多文化共生社会について学ぶ
04	留学生活について
05	留学前準備について①
06	留学前準備について②
07	留学中の安全対策について
08	留学前のまとめ①
09	留学前のまとめ②
10	１週間の留学生活（第１週）を振り返って
11	１週間の留学生活（第２週）を振り返って
12	英語の絵本の読み聞かせ①
13	ホームステイ後の生活について
14	英語の絵本の読み聞かせ②
15	５週間の振り返りと今後の課題発表
16	

科目名:専攻科基礎演習Ⅰ	担当者:小島　千恵子・八幡　美保	開講学科等	専攻科保育専攻
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:国内タイプ		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
　ディプロマ・ポリシーに示されている豊かな問題発見・解決能力と高度の専門性の獲得を目指し、時事問題や保育・教育の現代的課題を取り上げ、情報収集・意見交換を通して自分なりの考えが持てるようにする。
　また、学外の施設を訪ねて（フィールドワーク）、歴史や文化など社会的な事象への関心を深め、それらと保育との繋がりについて考える。取り上げる課題や訪問施設、及び行動の計画を受講生全員で立案する中で、思考力、表現力、コミュニケーション能力、協調性などを涵養する。
　授業はゼミナール形式で行う。

授業の到達目標
　１．これまでの学修成果を客観的に評価し、課題を把握して学習計画を立てる。
　２．時事問題や保育・教育の課題について積極的に情報収集し、意見交換を行う。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
保育の今日的課題について関心を深めるとともに、常に課題をもって考え、その考えを発信したり、仲間と議論する意識を持つようにすること。

評価方法
　自己の学習計画の立案と評価（30%）、レポート等の課題への取り組み（30%）、企画や意見交換への取り組み（40%）を総合的に評価する。欠席等の授業不参加については、総合点から減点する。

教科書	参考図書
特に指定しません。必要に応じて資料を配布する。	随時紹介する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
情報共有できるように日常的に教員や仲間と連絡を取り合うようにすること。

01	オリエンテーション、学習計画
02	保育の現代的課題①
03	保育の現代的課題②
04	保育の現代的課題③
05	研究論文を作成するにあたって （中間発表を聴講して）
06	時事問題①
07	時事問題②
08	時事問題③
09	フィールドワークの計画と準備①
10	フィールドワークの計画と準備②
11	フィールドワーク①
12	フィールドワーク②
13	フィールドワーク③
14	フィールドワーク④
15	前期のまとめ、学習のふり返り
16	なし

科目名:専攻科基礎演習Ⅱ	担当者:平野朋枝・新沼英明	開講学科等	専攻科保育専攻
		授業形態	演習
免許・資格:		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:留学タイプ		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
　本講義は円滑な留学生活の実施を目指しながら、問題発見・課題解決能力の醸成を目指し、受講者同士の意見交換や発表をとおし、確かな専門性と豊かな専門性の獲得を目指します。（新型コロナウイルス等の感染症の流行、紛争等の社会情勢により渡航できない場合は内容を変更します）

授業の到達目標
1.短大での学修を土台とし、より高度な専門性を培う専攻科での学修の基礎を固める。
2.他者と協調・協働して課題に取り組み、解決しようと努力することができる。
3.前期の留学生活を振り返り、課題を明らかにした上で、その課題を解決しようとすることができる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
本科目は留学タイプの学生を対象にしています。したがって日頃から語学学修に取り組むとともに、自ら異文化を理解するよう各々が意欲的に学修に取り組んでください。各回毎に課題を出しますが、概ね授業前後2時間程度の学修が必要です。

評価方法
授業への参加意欲と積極性（20%）、課題への取り組みと提出物の評価（50%)、レポート等（30%)
なお、欠席の場合は別途課題を課す。

教科書	参考図書
なし	適宜紹介する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
留学生活を円滑に行うための必須の授業です。課題等に真摯に取り組むこと。また、対面授業のほかskype等のメディアを利用することがあります。

01	オリエンテーション（現地対面授業）
02	語学学校を振り返って（現地対面授業）
03	保育コースに向けての課題について（現地対面授業）
04	ディスカッション・グループの課題と目標（現地対面授業）
05	オーストラリアの保育制度について
06	オーストラリアの子育てに関する諸問題
07	日豪の子育て文化について
08	ディスカッション・保育コースでの課題（現地対面授業）
09	ディスカッション・ オーストラリアでの今後の生活について（現地対面授業）
10	保育コースにおける研究について
11	オーストラリアにおける特別な支援が必要な子どもの支援
12	留学生活のまとめ①
13	留学生活のまとめ②
14	「留学報告会」の事前準備（帰国後）
15	留学報告会（修了式）
16	

科目名:専攻科基礎演習Ⅱ	担当者:小島　千恵子	開講学科等	専攻科保育専攻
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:国内タイプ		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
　ディプロマ・ポリシーに示されている豊かな問題発見・解決能力と高度の専門性の獲得を目指し、時事問題や保育・教育の現代的課題を取り上げ、情報収集・意見交換を通して自分なりの考えが持てるようにする。
　また、学外の施設を訪ねて（フィールドワーク）、歴史や文化など社会的な事象への関心を深め、それらと保育との繋がりについて考える。取り上げる課題や訪問施設、及び行動の計画を受講生全員で立案する中で、思考力、表現力、コミュニケーション能力、協調性などを涵養する。
　授業はゼミナール形式で行う。

授業の到達目標
　１．これまでの学修成果を客観的に評価し、課題を把握して学習計画を立てる。
　２．時事問題や保育・教育の課題について積極的に情報収集し、意見交換を行う。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
専攻科基礎演習Ⅰで考えたり、討論したりしたことを生かし、自ら課題提供できるように情報収集や調査することを積極的に行うこと

評価方法
　自己の学習計画の立案と評価（30%）、レポート等の課題への取り組み（30%）、企画や意見交換への取り組み（40%）を総合的に評価する。欠席等の授業不参加については、総合点から減点する。

教科書	参考図書
特に指定しません。必要に応じて資料を配布する。	随時紹介する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)

01	学習計画
02	保育の現代的課題④
03	保育の現代的課題⑤
04	保育の現代的課題⑥
05	保育の現代的課題⑦
06	フィールドワークの計画と準備③
07	フィールドワークの計画と準備④
08	フィールドワーク⑤
09	フィールドワーク⑥
10	フィールドワークのまとめ①
11	フィールドワークのまとめ②
12	保育・教育の分野に関するトピック　1
13	保育・教育の分野に関するトピック　2
14	保育・教育の分野に関するトピック　3
15	まとめ
16	なし

科目名:海外英語研修	担当者:平野朋枝・新沼英明	開講学科等	専攻科保育専攻
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	4
		必須.選択	選択

授業概要と方法
教育提携校（オーストラリア）における語学コースで15週間の英語研修プログラムに参加することを基本として、日常の英会話の基本及びコミュニケーション力、異文化理解の能力などを総合的に向上させる。渡航当初はホームステイを必須とし、現地生活への適応能力を高めるものとする。語学コースでは保育に関する関連用語についても学び、語学コース修了後の保育コースでの学びと実習に備える。

授業の到達目標
実践的な英語を学び、保育者として英語で対応できる語学力を身につけることを目標とする。（新型コロナウイルス等の感染症の流行、紛争等の社会情勢により渡航できない場合は内容を変更します）

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
日頃から英語の基本的な技能であるリスニング、スピーキング、ライティング、リーディングを高める努力をすること。また、日本の文化や社会を他国の人へ伝えるような知識の修得にも努めること

評価方法
事前指導20%　　現地校による評価（英語力テスト・授業参加状況と受講姿勢の評価）50%現地語学コース参加中の報告レポート30%

教科書	参考図書
なし	適宜配布する

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
この授業は、専攻科保育専攻の留学タイプを対象とした授業です。事前の留学指導をきちんと受けた上で、現地で語学能力の向上に努めることを求めます。

01	渡航前：（4～７月） オーストラリアへ留学するための事前指導が行われ、研修先の特徴や留学費用、ホームステイ先の選定などの情報を提供する。その過程において保護者参加可能の会も設けて留学への理解を深める。
02	オーストラリアでの語学研修：（8月） 語学能力に応じて段階別のクラスが編成され、他国の学生たちと触れ合いながら学習していく。 授業後は近隣の公立図書館などで自習をしながら自らの語学力を高めていく。
03	報告レポート提出：（12月） 現地での留学状況をレポートの形で隔週提出する。

2021年度シラバス

科目名:教育原理特論	担当者:金子 晃之	開講学科等	専攻科保育専攻
		授業形態	講義
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
　教育・学校の理念を理解する為、毎回、記入式のプリント、参考資料を配布し講義を行う。映像を用いて説明し映像を用いた事例検討を行う。また、受講者がグループ学習で意見交換した後、自分の考えたことを配布プリントに書き込みプレゼンテーションする作業を行う（全5回）。また小テストを行う（全2回）。

授業の到達目標
　この授業の目標は、①家族・社会を含めた教育・学校の歴史・思想・理論について知識を身に付けること、②近代の教育・学校の理念・目的・営みが、どのようなものとして出現し展開してきたのか、そこにおける課題は何かについて理解することにある。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　毎回指示するが、基本的に、次回の資料やプリントをあらかじめ配布する際は、次回までに与えられた課題について学習しておくこと。授業後は、配布資料や書き込んだプリントを読み直し、ポイントを振り返りながら、内容の理解を深めておくこと。

評価方法
　受講態度（20点）、授業時の小テスト（10点）、期末の筆記試験（70点）を合計して100点満点で評価する。

教科書	参考図書
毎回、資料とプリントを配布する。	「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」、「小学校学習指導要領」

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　オフィスアワー　木曜日昼休み　研究室

01	人間形成とアタッチメント
02	明治期以前の家族・学校・社会と人間形成
03	明治期の家族・学校・社会と教育①　近代教育制度の歴史・理論
04	明治期の家族・学校・社会と教育②　幼稚園・保育所の歴史・思想
05	大正期の家族・学校・社会と教育①　新教育運動と日本型学校文化の歴史・思想
06	大正期の家族・学校・社会と教育②　幼稚園の歴史・思想と教育家族
07	昭和期の家族・学校・社会と教育①　軍国主義下の教育の歴史・理論
08	昭和期の家族・学校・社会と教育②　戦後教育の歴史・理論
09	昭和期の家族・学校・社会と教育③　詰込み型教育の歴史・理論
10	昭和期の家族・学校・社会と教育④　ゆとり型教育への転換
11	平成期の家族・学校・社会と教育　　学力観の転換
12	欧米近代の家族・学校・社会と教育①　宗教改革と子ども観の転換
13	欧米近代の家族・学校・社会と教育②　家庭教育と学校教育の思想
14	欧米近代の家族・学校・社会と教育③　新教育運動の学校と思想
15	近代の学校と教育の特性と課題について
16	学期末試験

2021年度シラバス

科目名:保育者特論	担当者:小島　千恵子	開講学科等	専攻科保育専攻
		授業形態	講義
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
【担当者の実務経験】保育所園長
この授業科目では、元乳児院や養護施設での経験や保育所園長の経験を踏まえ、卒業（就職）するまでに、「自分の理想の保育者像」を確かなものにし、その実現に向けて一歩づつ近づく方法を身に付けて、就職できるように学びたい。先人の保育や保育観を学びながら、常に、「自分ならどうするか」をイメージしながら授業が出来るようにしたい。15回の中で、1回はレポートの提出・発表を体験する機会を作ります。

授業の到達目標
・保育者の役割と倫理について学ぶ
・保育士の制度的な位置づけを学ぶ
・保育士の専門性について学ぶ
・保育者の連携・協働・資質向上・キャリア形成について学ぶ

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
・常に「保育とは」「保育者とは」を意識しながら、実習やボランティア・子どもと接するときに考えてください。
・機会あるごとに子どもの様子を観察して記録に取る

評価方法
小レポート４０%・授業態度３０%・最終３０%

教科書	参考図書
無し	幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領・全国保育士会倫理綱領ガイドブック・その他授業の中で紹介します

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業などで連絡する　　メールアドレスa-harada@ohkagakuenn-u.ac.jp

01	保育者の役割と倫理について学ぶ・・保育とは何か・・保育者とはどうあるべきかを考える
02	保育者の仕事と役割Ⅰ幼稚園教育要領・保育所保育指針での保育者の役割
03	保育者の仕事と役割Ⅱ子ども理解と保育者の役割
04	保育者の仕事と役割Ⅲ保護者理解と子育て支援での保育者の役割
05	保育士の制度的な位置づけを学ぶ
06	保育者の連携・協働について学ぶ
07	保育者の資質向上とキャリア形成について学ぶ・保育者としての倫理観を学ぶ
08	先人たちの保育観・保育者観を学ぶⅠ野口由香・徳永恕
09	先人たちの保育観・保育者観を学ぶⅡ倉橋惣三
10	先人たちの保育観・保育者観を学ぶⅢ安部富士夫・畑谷光代
11	先人たちの保育観・保育者観を学ぶⅣ斎藤公子
12	先人たちの保育観・保育者観を学ぶⅤ近藤薫樹・高田敏幸
13	保育とは何か・・・遊びを楽しくする・遊びを発展させるとはと保育者の役割
14	保育とは何か・・・子どもの成長発達と保育者の役割
15	海外の保育について学ぶ　スウェーデン・ニュージーランド・オーストラリア確認テスト
16	

2021年度シラバス

科目名:発達心理学特論	担当者:布施 佐代子	開講学科等	専攻科保育専攻
		授業形態	講義
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須. 選択	必須

授業概要と方法
「人間は一生かけて発達していく」という生涯発達の視点に立ち、人生の基礎を築く「子ども時代」の中でも保育の対象となる乳児・幼児・児童の時期を中心に、保育との関連で子どもの心理発達の特徴としくみについて学ぶ。保育場面の映像や事例による学習の他、グループディスカッション等も随時取り入れて、より実践的に学びを深められるようにしていく。グローバルな視点から、多文化共生の中での子どもの発達と保育についても考えていく。

授業の到達目標
１．子どもの発達に関する基礎的な知識を確実に身につけている。２．さまざまな機能領域での発達を理解し、それを統合して「一人の人間」として「人や物とかかわりながら発達していく子ども」の姿を具体的に思い描くことができる。３．生涯発達の視点から保育の重要性を理解し、子どもの発達と保育の関係について考えることができる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
毎回の授業に際して、準備学修と事後学修をきちんと行うことにより、理解の徹底をめざしたい。準備学修として、教科書の該当部分や配布資料をあらかじめよく読み、与えられた課題についてポイントや意見をまとめておく。事後学修では、学修範囲のポイントを中心に学んだことを確認し、理解と考察を深める。　子どもと実際にかかわる機会を積極的に持つように心がけ、子どもとかかわりながらさらに子ども理解を深め豊かにしていくよう努めてください。

評価方法
定期試験　７0%、レポート・課題提出　20%、授業への参加態度（毎回のワークシートへの記入内容、グループディスカッションへの取り組み状況等）１0%から、総合的に評価します。

教科書	参考図書
「新・育ちあう乳幼児心理学　－保育実践とともに未来へ」 心理科学研究会編　有斐閣	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年告示）フレーベル館

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
日本だけでなく外国の子どもにも実習等でかかわるので、グローバルな視点から子どもの発達を的確にとらえ適切な対応を考える姿勢を大切にしましょう。オフィスアワーは月曜・金曜のお昼休みです。連絡先は授業で開示します。

01	保育と心理学（１）子どもの発達を理解する意義、発達理解と文化、保育実践とのかかわり
02	保育と心理学（２）発達をとらえる基本的な視点と基礎理論
03	子どもの発達理解（１）0歳児の運動・認知・言葉・人とのかかわり・自我の発達
04	子どもの発達理解（２）１歳児の運動・認知・言葉・人とのかかわり・自我発達
05	子どもの発達理解（３）0・1歳児の保育にみる発達の姿
06	子どもの発達理解（４）２歳児の運動・認知・言葉・人とのかかわり・自我の発達
07	子どもの発達理解（５）３歳児の運動・認知・言葉・人とのかかわり・自我の発達
08	子どもの発達理解（６）２・３歳児の保育にみる発達の姿
09	子どもの発達理解（７）４歳児の運動・認知・言葉・人とのかかわり・自我の発達
10	子どもの発達理解（８）5歳児の運動・認知・言葉・人とのかかわり・自我の発達
11	子どもの発達理解（９）４・５歳児の保育にみる発達の姿
12	子どもの発達理解（10）児童期の発達と教育
13	子どもの発達理解（11）多様性と保育ー多文化共生、障害等と子ども同士の育ち合いを考える
14	生涯発達と初期経験の重要性（１）胎児期・新生児期との関連で乳幼児の発達を考える
15	生涯発達と初期経験の重要性（２）青年期・成人期・老年期との関連で乳幼児の発達を考える
16	定期試験

2021年度シラバス

科目名:保育内容総論特演	担当者:吉田 真弓	開講学科等	専攻科保育専攻
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
３法の構造を理解し、子どもの発達を踏まえた保育内容を様々な角度から学ぶ。あわせて、園や家庭での教育及び地域おける子育て支援などについても理解する。さらに、少子化の進行、子どもの生活や遊びの変容による保育のニーズの高まりや今日的課題を考えた保育のあり方についても仲間と共に調査・発表・報告する。

授業の到達目標
・保育の意義についての明確な認識をする。そのうえで、子ども観、発達観、保育観を形成していく。
・保育ニーズに応えた保育内容のあり方を理解し、保育実践や展開の仕方を学ぶ。
・子どもの発達を踏まえた保育の内容を理解して保育の計画を構想し、評価の方法や保育の役割について理解する。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
・授業計画を確認して授業に参加する。
・復習として、授業と関連する内容を調査し自己ノートを作成する。
・仲間と課題について調査した内容をまとめ報告書を作成する。

評価方法
授業への参加・学習態度・学びの振り返り３０％、課題の提出３０％、筆記試験４０％にて評価する。

教科書	参考図書
津金美智子・新井美保子編　新時代の保育双書『子どもの主体性を育む保育内容総論』　（株）みらい	幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育・保育要領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
・免許・資格を取る学生は、休まず履修する。
・連絡手段については、担当教員から伝える。]
・演習科目なので、グループや実践活動など現場理解を深める内容が多い事を意識して参加する。

01	オリエンテーション・授業の進め方・子育てを巡る動向と課題＜グループディスカッション＞
02	子どもを取り巻く社会環境の変化と保育内容（我が国の保育構造・社会環境・園環境）
03	幼児教育・保育の基本（環境を通して行う保育、育みたい資質・能力、１０の姿の理解等）
04	遊びと保育内容（自発的な遊びと学び、保育内容と領域の関係）＜グループディスカッション＞
05	子ども理解①（乳児保育に関わる保育内容）
06	子ども理解②（１歳以上３歳未満児の保育内容）
07	子ども理解③（３歳以上児の保育内容）
08	子ども理解④（家庭・地域・小学校との連携）
09	子ども理解⑤（健康及び安全、子育て支援）
10	保育の計画①（教育課程・全体的な計画とカリキュラムマネジメント）
11	保育の計画②（指導計画と保育の展開）
12	保育の計画③（具体的な姿から実践へ）＜グループディスカッション＞
13	我が国における保育内容の変遷（戦前・戦後、現代の課題）
14	諸外国の保育内容（世界の幼児教育・保育の潮流、特色ある保育内容の調査）＜グループ調査＞
15	諸外国の保育内容＜グループ調査内容の発表＞　　★授業全体まとめ
16	筆記試験

2021年度シラバス

科目名:保育内容特演（環境）	担当者:橋村 晴美	開講学科等	専攻科保育専攻
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
【担当者の実務経験】保育所園長
この授業科目では、元乳児院や養護施設での経験や保育所園長の経験を踏まえ、現代の子どもを取り巻く環境や、乳幼児と環境との関わりについての専門的事項を学び、幼稚園教育要領・保育所保育指針等に示された領域「環境」のねらい及び内容について理解を深め、保育の構想、指導方法を学びます。環境との関わり、遊びの体験の中で子どもの認識や理解がどのように深まるかを学び、保育者がどのように指導をするのかを学びます

授業の到達目標
幼稚園教育要領・保育所保育指針等の基本を踏まえ、領域「環境」のねらい及び内容を理解する。特に乳幼児の認識についての学びを深め、環境に好奇心や探求心を持って主体的に関わり、それを生活に取り入れて関われるように、具体的な指導案を作成し、保育構想力を身に付ける。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
子どもの遊びに興味を持ち、自分の経験や子どもとの関わりの中で遊びの楽しさを味わってほしい。遊びをもっと楽しくする工夫やアレンジ力を身に付けてほしい。子どもの遊ぶ様子を観察して、どんな遊びをどんなふうに楽しんでいるのか観察してほしい。草花や昆虫、栽培などにも興味を持ってほしい

評価方法
レポート30％　授業態度30％、確認テスト40％

教科書 無し	参考図書 幼稚園教育要領解説書・保育所保育指針解説書・幼保連携型認定こども園教育保育要領解説書

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
オフィスアワー金曜日昼休み
メールアドレスa-harada@ohakagakuenn-u.ac.jp

01	乳幼児の育つ環境について学ぶ・遊びとは何か・遊びの意義
02	乳幼児の保育・教育の基本と保育内容「環境」のねらい、内容について
03	乳児期の認識の発達について学ぶ
04	幼児期の認識の発達について学ぶ
05	ごっこ遊びと子どもの指導・教材研究
06	草花遊びと子どもの指導・教材研究
07	構成遊びと子どもの指導・教材研究
08	乳幼児期にふさわしい環境と環境構成の実際（室内活動）
09	乳幼児期にふさわしい環境と環境構成の実際（室外活動）
10	標識・文字などに関わる保育の実際・教材研究
11	数量などに関わる保育の実際・指導案の作成と模擬授業
12	図形などに関わる保育の実際・情報機器の活用
13	子どもの育つ環境について考察する
14	意欲・主体性・好奇心・探求心と保育の関わり・保育者の関わり
15	幼児期の認識の発達と遊びの関わりのまとめ・確認テスト
16	

科目名:保育内容特演（言葉）	担当者:太田 昌孝	開講学科等	専攻科保育専攻
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
　本授業では、豊かな学びの共同体として、自主的、主体的に学び活動する力を養うために、保育内容指導法の言葉に関する専門的知識と技能を修得します。具体的には「言葉と児童文化財について、さらに言葉の発達を促すための教材として絵本等をどう活用すべきか学んでいきます。授業の方法は、授業の最初に絵本の読み聞かせを３名ほどが実演し、その後、教科書を読みビデオ視聴をした上で課題を解答します。座席は指定し、適宜、グループ・ワーク等のアクティブ・ラーニングの技法を用いて読み聞かせや絵本の制作を実施します。授業の課題や資料はmoodleなどのeラーニングを活用します。

授業の到達目標
１　言葉と児童文化財について発達を促す援助と計画を理解できる
２　幼稚園教育要領、保育所保育指針では領域「言葉」をどのように捉えているか理解できる
３　言葉の発達を促す保育者の働きかけや援助について、絵本等を通して理解し、実践できる

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　準備学修として事前に次に学ぶ教科書のページ及び参考資料を読むこと。加えて授業開始時に絵本の読み聞かせを担当する学生は事前に読み聞かせの練習を重ねて下さい（授業毎に１時間）。事後学修としては、絵本ノートを活用して図書館などで絵本のあらすじや内容をまとめて下さい（約30時間）。さらに、絵本の制作においては、各授業の進度に合わせてグループごとに制作活動を自主的に進め下さい（約15時間）。

評価方法
　受講態度や毎回の授業の課題等の提出物に加えて、予習復習の学修状況を60%、最後の確認テスト40%を目安として総合的に評価します。なお、授業回数の３分の２以上の出席者のみ評価対象とします。

教科書	参考図書
保育内容（言葉）ワークブック　吉見昌弘、三恵社　※前期の「幼児と言葉」と同一の教科書を使用します	幼稚園教育要領解説（フレーベル館）、保育所保育指針解説（フレーベル館）、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（フレーベル館）

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　連絡、質問等があれば、授業毎に回収する課題（ミニレポート）に記入するかオフィスアワー（水曜昼休み）の時に来訪して下さい。連絡先は授業時に開示します。なお本授業では、指示しない限りスマホ、携帯電話の使用及び飲食を禁止します。

01	オリエンテーション（授業全体の流れ、授業の進め方やルールの説明）
02	言葉と児童文化財　－教材の種類（絵本、ペープサート、パネルシアター）
03	言葉と児童文化財　－教材の種類と実演
04	言葉と児童文化財　－絵本のもつ役割と選び方
05	言葉を育むための保育者のかかわり　－絵本の読み聞かせについて－
06	言葉を育むための保育者のかかわり　－絵本の読み聞かせの実演－
07	保育内容の領域「言葉」－幼稚園教育要領における領域「言葉」－
08	保育内容の領域「言葉」－保育所保育指針・教育・保育要領における領域「言葉」－
09	保育内容の領域「言葉」－領域「言葉」と教科「国語」との関係－
10	言葉と絵本　－世界で一つだけの手作り絵本－
11	言葉と絵本　－絵本の構造と特徴－
12	言葉と絵本　－絵コンテ作り－
13	言葉と絵本　－絵の制作－
14	言葉と絵本　－絵本の紹介と実演－
15	まとめと確認テスト
16	なし

2021年度シラバス

科目名:幼児と環境特論	担当者:青山 裕美	開講学科等	専攻科保育専攻
		授業形態	演習
免許・資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法 現代の乳幼児の育ちに影響を与えている環境について理解し、保育で保障すべき保育内容に関する知識を身に付ける。特に領域「環境」の指導の基盤となる現代の幼児をよりまく環境とその現代的課題、幼児と身近な環境との関りの発達などについて学ぶ
授業の到達目標 幼児を取り巻く環境と、幼児の発達にとっての意義を理解する 幼児期の認識・科学的概念の発達を理解する 幼児期の標識・文字など、情報・施設との関りの発達を理解する
授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修 授業外において、様々な環境が幼児にどのような影響を与えるか、観察しながら、身近な環境に興味を持つように心がけてほしい。何気なく過ごす身の回りの環境、特にコロナ禍の中で、人との関わりも含めた幼児への環境の在り方に関心を持ってほしい。
評価方法 課題レポート40%・授業への参加や集団討論への参加態度30%・最終レポート30%

教科書	参考図書
幼稚園教育要領（解説書）	保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育保育要領・その他授業で紹介する

その他(学生へのアドバイス、連絡手段) オフィスアワー金曜日昼休み メールアドレスa-harada@ohakagakuenn-u.ac.jp

01	現代社会の幼児を取り巻く環境と、その課題
02	乳幼児期における発達における環境との関り
03	乳幼児期・児童期の認知的発達
04	乳幼児の物理的、数量、図形との関り・教材研究
05	乳幼児の自然との関り①（遊び・飼育・栽培）・情報機器の活用
06	乳幼児の自然との関り②（自然体験活動)教材研究
07	乳幼児期の標識・文字などの関り
08	まとめ
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:幼児と言葉特論	担当者:杉山 実加	開講学科等	専攻科保育専攻
		授業形態	演習
免許・資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
　本授業では、豊かな学びの共同体として、自主的、主体的に学び活動する力を養うために、次の学修内容を習得していく。幼児の言葉の発達について、発達段階を追いながら具体的な事例を踏まえて理解を深める。幼稚園教育要領における領域「言葉」のねらい及び内容について理解を深める。言葉の発達を促す絵本や紙芝居などの児童文化財等の種類と使い方について理解していく。授業の方法は、授業中に適宜課題を提示した上で、アクティブ・ラーニングで意見交換や発表をする。なお、座席は指定し、授業の課題や資料はmoodleなどのeラーニングも活用する。

授業の到達目標
幼児の発達特性を踏まえ、幼児の言葉の発達を理解できる。
幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「言葉」のねらい及び内容を理解し、援助ができる。
領域「言葉」と小学校の教科「国語」等とのつながりを理解し、適切な対応ができる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
準備学修として事前に次に学ぶ内容（参考資料等を含む）をよく調べて下さい（授業毎に１時間）。事後学修として授業で学んだ事柄に関連する新聞記事や著書などを主体的に調べて授業での学びをさらに深めて下さい（授業毎に２時間）。なお、授業の最後に初回の授業で指定した課題を授業外の学修成果として提出してもらいます（約15時間）。

評価方法
受講態度や毎回の授業の課題等の提出に加えて、予習復習の学修状況を40%、授業の初回に指定した課題を20%、最後のまとめにおける確認テスト40%として総合的に評価する。

教科書	参考図書
保育内容（子どもと言葉）ワークブック　吉見昌弘、三恵社 ※後期の「保育内容指導法（言葉）」と同一の教科書を使用します。	幼稚園教育要領解説（フレーベル館）、保育所保育指針解説（フレーベル館）、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（フレーベル館）

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
連絡、質問等があれば、授業毎に回収する課題（ミニレポート）に記入するかオフィスアワー（授業のある日のお昼休み）の時に来訪して下さい。連絡先は授業時に開示します。なお本授業では、指示しない限りスマホ、携帯電話の使用及び飲食を禁止します。

01	授業全体の流れの説明及び幼稚園教育要領について
02	言葉とは何か
03	言葉の働き
04	幼児の言葉の言葉　－３歳児の事例を踏まえて－
05	幼児の言葉の発達　－４歳児の事例を踏まえて－
06	幼児の言葉の発達　－５歳児の事例を踏まえて－
07	言葉の発達を促す児童文化財
08	まとめと確認テスト
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2021年度シラバス

科目名:幼児音楽特演Ⅰ	担当者:石山 英明	開講学科等	専攻科保育専攻
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
子どものための音楽活動に関する基礎技術として、ピアノ・幼児歌曲の弾き歌いの技能、及び音楽理論の基礎（楽典）を学ぶ。また、子どもの発達と音楽を中心とする表現活動を理解し保育・幼児教育を展開できるよう、また、どうしたら学生自らの力で音楽・音楽表現及び指導力を高めていけるかの道筋を示し、様々な角度から音楽について学ぶ。授業は、クラスをグループに分け、個人レッスンとグループワークを行う。

授業の到達目標
幼児の表現及び音楽活動の援助を円滑に行うために、課題の習得による音楽的なピアノ演奏及び幼児歌曲の弾き歌いが出来るようにする。ピアノ演奏の初心者は、バイエル60番程度と、同程度までの楽曲、既修者は更に上のレベルを目指す。楽典とソルフェージュ、幼児歌曲の弾き歌いなども同時に学び、楽典の範囲は音階の理解までとする。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
毎日、楽器に触れ、練習する習慣を身に付けましょう。また、日常の中から、音や音楽・表現に関する場面に関心を持つようにしましょう。

評価方法
ピアノ実技(50%)、実技担当教員の評価による平常点(20%)、楽典(30%)で評価する。平常点は、実技担当教員が、学習意欲、目標到達度、積極性を評価するものである。ピアノ実技は、発表会において教員が個々の演奏を評価する。

教科書	参考図書
標準バイエル教則本（全音楽譜出版社）、歌のカレンダー（エー・ティー・エヌ）、ピアノ実技と楽典（音楽之友社）	楽譜のほか、音源なども参考にしましょう。幼稚園教育要領解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説、保育所保育指針解説書。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
音楽に興味を持ち、楽しみながら練習することが上達の近道だと思います。
連絡はisiyama@ohkagakuenn-u.ac.jpまで。

01	クラス分け／レッスン1
02	レッスン 2／楽譜の意味、音名と階名、音符ドリル、ソルフェージュ
03	レッスン 3／音の幅、弾き歌い、音符の長さ
04	レッスン 4／リズムと拍子、音符ドリル、ソルフェージュ、小テスト
05	レッスン 5／音符ドリル、弾き歌い
06	レッスン 6／調号、さまざまな記号、弾き歌い
07	実技試験／楽語、楽典の復習、ソルフェージュ
08	実技試験の振り返り／楽典試験
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2021年度シラバス

科目名:幼児音楽特演Ⅱ	担当者:石山 英明	開講学科等	専攻科保育専攻
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
課題の習得により、円滑で音楽的なピアノ演奏及び幼児歌曲の弾き歌いが出来るようにする。また、子どもの発達と音楽を中心とする表現活動を理解し保育・幼児教育を展開できるよう、そして、どうしたら学生自らの力で音楽・音楽表現及び指導力を高めていけるかの道筋を示し、様々な角度から音楽について学ぶ。授業は、クラスをグループに分け、個人レッスンとグループワークを行う。

授業の到達目標
幼児の表現及び音楽活動の援助を円滑に行うために、課題の習得による音楽的なピアノ演奏及び幼児歌曲の弾き歌いが出来るようにする。ピアノ演奏の初心者は、バイエル88番程度と、同程度までの楽曲、既修者は更に上のレベルを目指す。楽典とソルフェージュ、幼児歌曲の弾き歌いなども同時に学び、音階と音程の理解までとする。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
毎日、楽器に触れ、練習する習慣を身に付けましょう。また、日常の中から、音や音楽・表現に関する場面に関心を持つようにしましょう。

評価方法
ピアノ実技(50%)、実技担当教員の評価による平常点(20%)、楽典(30%)で評価する。平常点は、実技担当教員が、学習意欲、目標到達度、積極性を評価するものである。ピアノ実技は、発表会において複数の教員が個々の演奏を評価する。

教科書	参考図書
標準バイエル教則本（全音楽譜出版社）、歌のカレンダー（エー・ティー・エヌ）、ピアノ実技と楽典（音楽之友社）	楽譜のほか、音源なども参考にしましょう。幼稚園教育要領解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説、保育所保育指針解説書。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
音楽に興味を持ち、楽しみながら練習することが上達の近道だと思います。
連絡はisiyama@ohkagakuenn-u.ac.jpまで。

01	ガイダンス／レッスン1（レベルチェックと各自の課題提示）
02	レッスン 2／音程の種類、音程の判定方法、ソルフェージュ
03	レッスン 3／長短系音程、完全系音程、派生音を含む音程、音程ドリル
04	レッスン 4／音程のまとめ、弾き歌い、確認テスト
05	レッスン 5／音階と調号、身体表現と音楽（導入）
06	レッスン６／写譜、身体表現と音楽（応用）　レッスン 6／音程（派生音）、ソルフェージュ
07	実技試験／楽典（後期）の復習
08	実技試験の振り返り／楽典試験
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2021年度シラバス

科目名:幼児造形特演Ⅰ	担当者:高田 吉朗	開講学科等	専攻科保育専攻
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
【担当者の実務経験】小学校非常勤講師
この授業科目では、元小学校非常勤講師（図画工作専科）の経験を踏まえ、幼稚園・保育園・小学校の連携を含めた指導・支援方法について具体的な検討を行う。また発達の過程を含めた支援計画・指導計画の活動について体験的に学ぶことができるようにする。

保育者（保育教諭を含む）を目指す学生が、幼児の造形表現を見通し、支援・指導を行う際に必要な知識及び技能、表現力について、教材研究を通して身に付けることを目的とする。授業の方法としてICTの活用や協同的学修を行う。

授業の到達目標
造形的な保育実践に必要な表現力と知識を身につける
（1）保育実践に必要な表現力を身につける
保育実践に必要な造形の発想・構想の力・保育実践に必要な造形材料などの特徴を生かして表現する技術力・保育実践に必要な造形表現活動の過程から読み取る力・保育実践に必要な造形表現の方法について伝える力
（2）保育実践に関する知識についての理解
造形的な表現活動の意義と幼児の発達特徴・身近な造形材料（自然材・人工材等）の特徴・保育実践に必要な造形の用具の基本的・基礎的な扱いと安全性・保育実践に必要な造形活動の環境構

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
授業内で詳細を提示
準備学修：自ら素材集めをして授業に備えてください。
事後学修：演習した内容についてまとめを記入してください。
その他提出課題（ポートフォリオ・ポップアップカード等）があります。

評価方法
学修内容の学びや気づきを活動の記録として授業題材毎のポートフォリオとしてまとめたものを学びの過程として評価（40%）その他、造形指導に関する基本的・基礎的な知識・技能を評価とする（40%）。振り返り等（20%）

教科書	参考図書
幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領幼稚園教育要領、	3.4.5歳児の造形活動おまかせガイド（明治図書）

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
保育者となったときのことのことを考え、日頃から手作りを楽しんでください。
連絡手段：tabata@ohkagakuen-u.ac.jp

01	幼児の発達の特徴と表現活動の意義について（描画について）
02	平面演習１（ドリッピング・バチックなど）
03	平面演習２（マーブリング・染紙など）
04	平面演習３（スタンピングなど）
05	平面演習４　（紙版画）
06	ポップアップカードの制作１(とび出す仕組みについて)
07	ポップアップカードの制作２・提出
08	活動を振り返って（ICTを使った活動評価とまとめ）
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2021年度シラバス

科目名:幼児造形特演Ⅱ	担当者:高田 吉朗	開講学科等	専攻科保育専攻
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:幼児造形Aを履修済みであること 幼児造形Aを履修済みであること		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
【担当者の実務経験】小学校非常勤講師
この授業科目では、元小学校非常勤講師（図画工作専科）の経験を踏まえ、幼稚園・保育園・小学校の連携を含めた指導・支援方法について具体的な検討を行う。また発達の過程を含めた支援計画・指導計画の活動について体験的に学ぶことができるようにする。
保育者（保育教諭を含む）を目指す学生が、幼児の造形表現と小学校低学年の図画工作等の学習活動を見通し、支援・指導を行う際に必要な知識及び技能、表現力について、教材研究を通して応用的に身に付けることを目的とする。授業の方法としてICTの活用や協同的学修を行う。

授業の到達目標
造形的な保育実践に必要な表現力と知識を応用的に身につける。
（1）保育実践に必要な応用的な表現力
保育実践に必要な造形の発想・構想の力を身に付ける・保育実践に必要な造形材料などの特徴を生かして表現する技術力を身に付ける・保育実践に必要な造形表現活動の過程から読み取る力を身に付ける・保育実践に必要な発展的な造形表現の方法について伝える力を身に付ける
（2）保育実践に関する知識
造形的な表現活動の意義と幼児の発達特徴について理解・身近な造形材料（自然材・人工材等）の特徴について理解・保育実践に必要な造

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
授業内で詳細を提示
準備学修：自ら素材集めをして授業に備えてください。
事後学修：演習した内容についてまとめを記入してください。
その他提出課題（ポートフォリオ等）があります。

評価方法
学修内容の学びや気づきを活動の記録として授業題材毎のポートフォリオとしてまとめたものを学びの過程として評価（40%）その他、造形指導に関する基本的・基礎的な知識・技能を評価とする（40%）。振り返り等（20%）

教科書	参考図書
幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領幼稚園教育要領、	3.4.5歳児の造形活動おまかせガイド（明治図書）

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
保育者となったときのことのことを考え、日頃から手作りを楽しんでください。
連絡手段：tabata@ohkagakuen-u.ac.jp

01	幼児の発達の特徴と表現活動の意義について（工作について）
02	立体演習１（空き箱を使った工作について）
03	立体演習２（牛乳パックを使った工作について）
04	立体演習３（紙皿・紙コップを使った工作について）
05	立体演習４　（造形あそびについて）
06	製作活動を通した模擬保育１(素材を組み合わせた表現について)
07	製作活動を通した模擬保育２(粘土遊びについて)
08	活動を振り返って（ICTを使った活動評価とまとめ）
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:幼児体育特演Ⅰ	担当者:平野 朋枝	開講学科等	専攻科保育専攻
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
幼児の身体および運動能力の発育・発達について理解するとともに、幼児体育の意義やねらいを明らかにする。その上で、運動遊びの具体的な内容や指導方法について理解・修得し、保育者として実践力を身につける。本演習を通して、自らも運動遊びを楽しむことができるようにする。

授業の到達目標
■指導者として、基本的な声掛けや運動指導の方法を身につける
■幼児体操の楽しさを知るとともに指導法を身につける
■新聞紙の楽しさを知るとともに指導法を身につける
■鬼遊びの楽しさを知るとともに指導法を身につける
■水遊びの楽しさを知るとともに指導法を身につける
■身体表現の楽しさを知るとともに指導法を身につける

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
準備学修として、シラバスに掲げてある運動遊びついて文献で調べておいて下さい。事後学修として、授業中に取ったメモを整理し、毎回の授業内容を提出用の授業ノートへ清書して下さい。

評価方法
1. 受講態度（50%）　2. B5サイズの大学ノートを用意し、授業内容をまとめ学期末に提出（50%）

教科書	参考図書
幼稚園教育要領及び解脱、保育所保育指針及び解脱、幼保連携型認定こども園教育・保育要領及び解脱	授業の中で指示をする

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
隔週で開講する予定であり、詳細は初回授業で案内します。高校などで使用していたスポーツウエア、スポーツシューズ、体育館シューズを用意し、それらを着用して授業へ臨んで下さい。毎回の授業ではメモ用紙と筆記具を携行してください。運動禁忌の場合は、申し出て下さい。

01	幼児体育の理念および授業計画について（寺田恭・木村）
02	幼児体操、からだを動かす歌遊び（木村）
03	新聞を使った遊び（木村）
04	簡単なルールの鬼遊び（木村）
05	仲間を助ける鬼遊び（木村）
06	身体表現運動（様々な模倣からカラダを感じる）（寺田恭）
07	運動会における身体表現（寺田恭）
08	水遊び　水に慣れる(親しむ)運動遊び（寺田恭・木村）
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2021年度シラバス

科目名:幼児体育特演Ⅱ	担当者:平野 朋枝	開講学科等	専攻科保育専攻
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
体育Aから継続して、乳幼児の身体や運動能力の発育・発達についての理解や課題の把握に努めながら、体育の意義やねらい、内容・方法についての理解と習得をはかり、保育者として実践力を高める。各種の運動遊びの教材や展開方法について理解・認識を深めたうえで、体育の教材づくりや指導方法について工夫し、それらを実践的・体験的に追求していくことができるようにする。 特に、各種の運動遊びの教材や展開方法について理解・認識を深めたうえで、「幼児体育」の教材づくりや指導方法について工夫し、それらを実践的・体験的に追求していくことができるようにする。

授業の到達目標
■運動遊びを指導する上で、安全管理に対する理解とその配慮ができる。
■サーキット遊びの楽しさを知るとともに指導法を身につける
■いすを使った運動遊びの楽しさを知るとともに指導法を身につける
■運動会の競技指導ができる
■縄跳びを使った遊びの楽しさを知るとともに指導法を身につける
■ボール遊びの楽しさを知るとともに指導法を身につける
■伝承遊びの楽しさを知るとともに指導法を身につける

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
準備学修として、シラバスに掲げてある運動遊びついて文献で調べておいて下さい。事後学修として、授業中に取ったメモを整理し、毎回の授業内容を提出用の授業ノートへ清書して下さい。伝承遊びである竹馬、けん玉、フラフープ、お手玉、ひも独楽などの見本を子どもの前で見せることが出来るようになって下さい。

評価方法
1. 受講態度（30%） 2. B5サイズの大学ノートを用意し、授業内容をまとめ学期末に提出（50%） 3. 基礎的技能の習得状況（20%）

教科書	参考図書
幼稚園教育要領及び解脱、保育所保育指針及び解脱、幼保連携型認定こども園教育・保育要領及び解脱	授業の中で指示をする

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
隔週で開講する予定であり、詳細は初回授業で案内します。高校などで使用していたスポーツウエア、スポーツシューズ、体育館シューズを用意し、それらを着用して授業へ臨んで下さい。毎回の授業ではメモ用紙と筆記具を携行してください。運動禁忌の場合は、申し出て下さい。

01	サーキット遊び　平均台、巧技台、跳び箱、マットなどの使い方を学ぶ（木村）
02	サーキット遊び　運動遊具を組み合わせた遊び方を考える（木村）
03	椅子を使った遊び（木村）
04	運動会の親子競技の指導（木村）
05	縄を使った運動遊び（寺田恭）
06	ボール遊び（寺田恭）
07	伝承遊び　用具を使わない遊び（寺田恭）
08	伝承遊び　竹馬、けん玉、フラフープ、お手玉、ひも独楽（寺田恭）
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2021年度シラバス

科目名:多文化共生研究特論	担当者:髙橋　一郎	開講学科等	専攻科保育専攻
		授業形態	講義
免許・資格:幼稚園教諭1種免許状		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
世の中、社会は様々な人々、文化、慣習、伝統などで成り立っています。そしてそうしたそれぞれの文化を背負った者が一緒になるとき、そこには文化摩擦、時には争いも生じます。受け入れられないことは争ってでも阻止するのか、あるいは共に生きていくため妥協・合意して折り合いをつけていくのかーーー私たちはそういった場面で決断を求められることもあります。国際教養こども学科1年前期の科目として、幅広い視野と社会に対する多角的な視点を国際・国内両方の事象から考えます。

授業の到達目標
この授業は【覚える】【暗記する】より【考える】授業です。それはこれからどう生きていくか、一人の人間として人生計画を組み立てて進んでいくか、などを多文化共生の観点から考えます。留学を控える学科として、海外で学びに行く意義付けと習得すべき者は何かを考えます。なお、下記授業計画の順番が替わる場合があります。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
社会に対する観察力を付ける人間に対するコミュニケーション力を付ける事象に対する分析力を付ける

評価方法
授業内の発言・発信30%　授業内レポート30%　期末考査40%

教科書	参考図書
幼稚園教育要領　幼保連携型認定こども園教育・保育要領幼稚園教育要領　(詳しくは授業第1回目に話します)	図書館の教員指定図書(高橋)に目を通す。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
オフィスアワー　月曜ランチタイム

01	ウサギとカメ
02	ステレオタイプ「A子はうざいよ」
03	わっしょい、わっしょい
04	黒い未亡人
05	猿回しとイルカショー
06	過去・現在・未来
07	トーキー
08	太陽は味方か敵か？月は？
09	クイズと発表
10	命
11	遊ばない保育!?
12	日本
13	天災は忘れた頃やってくる
14	国際結婚
15	ケーススタディー
16	定期試験